

令和4年度

入賞作品集

「少年の主張」
中学生話し方大会

「家庭の日」に
関する作文・図画



広島県の青少年のマスコット
「ゆっぴー」

青少年育成の基本指針

(昭和52年6月1日青少年育成広島県民会議制定)

前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとすれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人)

一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会)

一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然)

一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界)

一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括)

一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。

はじめに

「少年の主張」・中学生話し方広島大会2022（第44回「少年の主張」広島県大会、第56回中学生話し方大会）を広島県中学校話し方連盟、独立行政法人国立青少年教育振興機構と共催で、令和4年9月3日（土）に開催しました。

コロナ禍ではございますが、県内中学校の45校から2,756編の応募があり、その中から原稿審査を通過した16名が、会場において、それぞれの主張を力強く発表していただきました。

発表内容としては社会的な現実、平和、コロナなどの社会現象や自然災害の中から自分の体験を通した素直な意見や、自分の弱さや失敗をストレートに表現された発表もあり、非常に好感がもてました。

この作品集は、発表者全員の発表内容を記録しております。

「家庭の日」に関する作文・図画は、県内の小・中学生を対象に募集を行い、県内の小学校50校、中学校38校から作文・図画を合わせて1,802作品の応募がありました。

これらの作品は、日常生活において家族と自分とのかかわり方で感動したこと、家族に感謝している心や存在の大切さなど、自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。

応募作品の中から事前審査を通過した作文30作品、図画285作品を厳正に審査し、特選作文3作品、特選図画1作品、入選作文21作品、入選図画5作品を掲載しております。

この作品集を多くの皆様にご覧いただき、小・中学生の思いを受けとめていただければ幸いです。

終わりに、この事業の実施に当たりご協賛いただいた国際ソロプチミスト広島、広島清流ライオンズクラブ、公益財団法人広島青少年文化センター及び県内13ロータリークラブ並びにご協力いただいた関係者の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年12月

公益社団法人青少年育成広島県民会議
会長 神出 亨

「少年の主張」に関する目次

○第44回「少年の主張」広島県大会・第56回中学生話し方大会会場風景 ……………	1
○第44回「少年の主張」広島県大会・第56回中学生話し方大会発表者一覧 ……………	2
○受賞者一覧	
広島県知事賞	
平和な世界を……	広島県立広島中学校 2年 <small>なかしま</small> 中島 <small>ちなつ</small> 千夏 … 4
公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞	
命の輝き	東広島市立高屋中学校 3年 <small>すえおか</small> 末岡 <small>いぶき</small> 依路 … 5
広島県中学校話し方連盟会長賞	
まっすぐに、一生懸命に	尾道市立高西中学校 2年 <small>すぎはら</small> 杉原 <small>いおり</small> 伊織 … 6
国際ソロプチミスト広島会長賞	
繰り返す歴史の中で	広島市立城南中学校 3年 <small>なかしま</small> 中嶋 <small>くるみ</small> 胡桃 … 7
広島清流ライオンズクラブ会長賞	
自分を見つめる	竹原市立賀茂川中学校 3年 <small>おち</small> 越智 <small>みやび</small> 雅 … 8
優 秀 賞	
大雨とコロナで改めて感じた仲間存在	山陽女学園中等部 3年 <small>たにおか</small> 谷岡 <small>めい</small> 芽依 … 9
幸せのつくり方	坂町立坂中学校 3年 <small>ありで</small> 折出ひより … 10
小さなことでも	尾道市立御調中学校 3年 <small>とさ</small> 土佐 <small>みゆ</small> 心優 … 11
	(発表順)
優 良 賞	
職場体験学習で学んだこと	三次市立布野中学校 2年 <small>ふじわら</small> 藤原 <small>ただし</small> 正 … 12
ありがとう、プロジェクトメンバー	尾道市立栗原中学校 1年 <small>かしもと</small> 樫本 <small>ゆきの</small> 雪乃 … 13
よりよい校則をつくるために	広島市立日浦中学校 2年 <small>くわやま</small> 桑山 <small>のどか</small> 和花 … 14
正直に生きて	庄原市立口和中学校 2年 <small>ながたに</small> 長谷 <small>ひろき</small> 祐規 … 15
気付かせてくれた言葉	大崎上島町立大崎上島中学校 3年 <small>こんどう</small> 近藤 <small>あいか</small> 愛花 … 16
フライングの先へ	広島市立三入中学校 2年 <small>うえはら</small> 上原 <small>ひろむ</small> 弘夢 … 17
まず、「心の防具」さらに…	広島市立瀬野川中学校 3年 <small>たにむら</small> 谷村 <small>さくら</small> 咲雷 … 18
	(発表順)
基準特別賞	
力のおすそわけ	広島市立可部中学校 1年 <small>みうら</small> 三浦 <small>さわ</small> 佐和 … 19
○講 評	
審査員長 和田 晋 比治山大学非常勤講師 ……………	20
○第44回「少年の主張」広島県大会・第56回中学生話し方大会開催要領 ……………	22
○審査員及び審査基準 ……………	24
○第44回「少年の主張」全国大会～わたしの主張2022～内閣総理大臣賞 受賞作品	
あなたの声、心に届け	山梨県北杜市立甲陵中学校 3年 <small>まえはし</small> 前橋 <small>まこと</small> 真子 … 25

「家庭の日」に関する目次

特選（広島県知事賞）

●作文の部

おかえりのぎゅっ	東広島市立板城西小学校	1年	にしわき 西脇	いぶき 芽吹	… 26
笑顔っていいねえ	広島市立彩が丘小学校	6年	あさへ 浅邊	おとぎ 乙稀	… 27
私だけの「ドライブ・マイ・カー」	福山市立新市中央中学校	3年	かしはら 柏原	ゆづき 優月	… 28

●図画の部

ダイナソーパークに行った思い出をかいた。	呉市立安登小学校	3年	ばば 馬場	いちや 壹弥	… 50
----------------------	----------	----	----------	-----------	------

入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

●作文の部

あらしまつりにきてみんなさい	東広島市立小谷小学校	1年	あらし 嵐	まこと 誠	… 29
ぼくとかめこの93日	三原市立糸崎小学校	3年	あほ 安保	よつば 善絆	… 30
これはトンカチです。いや、恋文です。	広島市立大河小学校	4年	あまの 大野	まや 舞弥	… 31
ぼくの家族と今年の夏休み	竹原市立竹原西小学校	5年	すみよし 住吉	せいあ 晟亜	… 32
父と夏休み	広島市立口田東小学校	6年	とうじょう 東城	ゆうき 優姫	… 33
我が家の川の字	廿日市市立廿日市中学校	1年	たけさこ 竹迫	かえで 楓	… 34
家族の形	廿日市市立四季が丘中学校	1年	ちく 知久	ちあき 千瑛	… 35
感謝	三原市立宮浦中学校	1年	なかしま 中島	ここあ 心杏	… 36
祖父との思い出	尾道市立美木中学校	1年	はたなか 島中	しろう 翔	… 37
母の笑顔	広島市立江波中学校	1年	ふじい 藤井	みこ 美琴	… 38
弟の力	庄原市立庄原中学校	1年	まつもと 松本	おとほ 乙華	… 39
家族でつくる特別な日	廿日市市立廿日市中学校	2年	おおさわ 大澤	かおる 薫	… 40
家族みんなでつかった全国大会	東広島市立松賀中学校	2年	きだ 木谷	ゆづき 優月	… 41
自宅待機	広島市立可部中学校	2年	しろもと 白本	はるの 春乃	… 42
我が家のルール	三原市立宮浦中学校	2年	すなだ 砂田	あかね あかね	… 43
伝えたい想い	三次市立塩町中学校	2年	ふくだ 福田	やすと 泰子	… 44
過保護の説明書	広島市立五日市中学校	2年	やまうち 山内	のぞみ 希珠	… 45
家族から	尾道市立美木中学校	3年	かねふじ 金藤	まお 眞想	… 46
笑う我が家には4人いる	呉市立横路中学校	3年	しげもと 重本	みのり 実理	… 47
当たり前感謝はない	東広島市立松賀中学校	3年	しらの 白野	わかば 若葉	… 48
祖母から教えてもらったこと	三原市立大和中学校	3年	ちかひろ 近廣	おとほ 音羽	… 49

●図画の部

山村留学しているお兄ちゃんとの再会。	福山市立御幸小学校	1年	もりした 森下	たまき 珠妃	… 51
家族で見た花火がきれいで楽しかった。	福山市立春日小学校	3年	うだ 宇田	ももか 百花	… 51
水が流れる様子を、色を重ねて表現している。	尾道市立御調西小学校	3年	さとう 佐藤	なりまさ 成将	… 51
おうちで楽しく親子のピアノ・アンサンブル	広島市立己斐東小学校	5年	くぼ 久保	ゆいき 惟生	… 51
カメラの中の私たちが懐かしんで描いた。	広島県立広島中学校	3年	もちかわ 餅川	はな 芭奈	… 51

令和4年度「家庭の日」作文・図画募集要綱	52
----------------------	----

審査員名簿及び審査要領	53
-------------	----

令和4年度応募校一覧	54
------------	----

「少年の主張」・中学生話し方大会 2022

日時：令和4年9月3日（土）10：00～14：30

場所：広島県社会福祉会館（広島市南区比治山本町12-2）



集合写真



大会開始前の会場



審査員・会場風景



主催者及び来賓登壇



表彰式の風景

発表者一覧



基準
「力のおすそわけ」

広島市立可部中学校
1年 みうら さわ
三浦 佐和



1番
「平和な世界を……」

広島県立広島中学校
2年 なかしま ちなつ
中島 千夏



2番
「大雨とコロナで改めて
感じた仲間の存在」

山陽女学園中等部
3年 たにおか めい
谷岡 芽依



3番
「職場体験学習で
学んだこと」

三次市立布野中学校
2年 ふじわら ただし
藤原 正



4番
「ありがとう、
プロジェクトメンバー」

尾道市立栗原中学校
1年 かしもと ゆきの
櫻本 雪乃



5番
「幸せの作り方」

坂町立坂中学校
3年 おりで
折出ひより



6番
「よりよい校則を
つくるために」

広島市立日浦中学校
2年 くわやま のどか
桑山 和花



7番
「小さなことでも」

尾道市立御調中学校
3年 とさ みゆ
土佐 心優



8番
「正直に生きて」

庄原市立口和中学校

2年 ^{ながたに}長谷 ^{ひろき}祐規



9番
「命の輝き」

東広島市立高屋中学校

3年 ^{すえおか}末岡 ^{いぶき}依緒



10番
「繰り返す
歴史の中で」

広島市立城南中学校

3年 ^{なかしま}中嶋 ^{くるみ}胡桃



11番
「まっすぐに、
一生懸命に」

尾道市立高西中学校

2年 ^{すぎはら}杉原 ^{いおり}伊織



12番
「気付かせてくれた
言葉」

大崎上島町立大崎上島中学校

3年 ^{こんどう}近藤 ^{あいか}愛花



13番
「フライングの先へ」

広島市立三入中学校

2年 ^{うえはら}上原 ^{ひろむ}弘夢



14番
「自分を見つめる」

竹原市立賀茂川中学校

3年 ^{おち}越智 ^{みやび}雅



15番
「まず、「心の防具」
さらに…」

広島市立瀬野川中学校

3年 ^{たにむら}谷村 ^{さくら}咲蕾

広島県知事賞



平和な世界を……

広島県立広島中学校

2年 ^{なか}中 ^{しま}島 ^ち千 ^{なつ}夏

崩れた家屋。煙を上げる民家。助けを求める人々。

今、ウクライナではロシアとウクライナが戦争をしています。私は、これまで生きてきた中で、「戦争」を身近に感じることはありませんでした。

しかし、北京冬季オリンピックの後から、ニュースや新聞では「ウクライナ」という5文字を見ない日はなく、ウクライナの街の衝撃的な映像が私の目に飛び込んできます。

そんなある日、いつものように夕食を食べていると、
「今日ね、ウクライナで5,000人くらい亡くなったらしいよ。」

母の言葉に箸が止まりました。

「もう食糧がなくなってきとるけん、餓死なんだって。」

「が、餓死？」

「餓死」という言葉に、私は耳を疑いました。私の目の前の夕食は焼きそば、味噌汁と白米。デザートには真っ赤な苺。ウクライナの子どもたちは、私のように笑顔で食卓につくことができないのです。今の時代に餓死なんてあり得ない。戦争に全く関係のない住民がなぜ、こんな目に遭うのでしょうか。胸が詰まります。

なぜ、戦争をするのだろう。理由がどうであっても戦争はあってはならない。映像を見る度に、強い怒りがこみ上げてきます。私はもちろん戦争に反対です。ずっと平和な世の中であってほしいと強く強く願っています。その理由は、今私がこの世界に生きているからです。

母の母の母、つまり私の曾祖母は広島で被爆したと母が教えてくれました。ものすごい爆風で、家が吹き飛んでいったそうです。幸い、曾祖母は地下に入っていたので、無事でした。原爆投下後は、がれきの中にある瓶や鉄などを拾って生活する、本当に苦しいものだったそうです。曾祖母は、そのときのことをあまり家族にも話しませんでした。きっと、つらくて悲しくて、思い出したくもなかったのでしょう。どれだけ傷つき、そしてどれだけ必死に生き抜いてきたのかは、私には想像が付きません。曾祖母が生き抜いていなければ、私はこの世界に生まれていなかったかもしれません。その私は、長崎に原爆が投下された、8月9日午前11時2分に生まれました。何か、運命的なものを感じています。だからこそ、曾祖母からつながるこの私の命を大切に思い、ありがたく感じ、毎日生活しています。

私は、まだ14歳。無力な中学生です。「どうすれば、ロシアやウクライナの人々を救えるのだろう。どうすれば世界中の人々が笑顔で暮らせるのだろう。」と日々考えています。今の私が、どうすれば世界のためになることができるのでしょうか。けんかはしないとか、友達を大切にすることは、当たり前のことです。私は、過去の戦争について学び、自分の思いを文字に起こし表現すること、そして「戦争はいけない」と友達、学校、地域の人々に、自分の思いを発信し未来につなげることが大切だと考えています。世界平和を願い、自分自身の考えをしっかりと磨き、「戦争はいけない」というこの思いを周りの人に届けることから始めるのです。小さな一歩かもしれませんが。しかし私は、今ここに生かされている命を大切にしながら、確実に自分にできることを行動に移していこうと思っています。さらには、もっと広く発信できる力を付けたいと考えています。

街を歩くと、新緑の木々が揺れています。ピースサインをして自撮りをする学生たちに出会います。ピースサインは、昔は「戦争」という意味があったそうです。でも今は、ピースは平和のシンボルです。世界中の人々が心から笑ってピースサインができる日が早く訪れますように。いつかは平和な世界が訪れると信じて、私は前を向き、自分の一歩を踏み出します。

公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞



命の輝き

東広島市立高屋中学校

3年 ^{すえ}末 ^{おか}岡 ^い依 ^{ぶき}路

「お母さんはもうそんなに長くは生きられないかもしれない」

平和な日々が突然そんな状況になったら、あなたはどうなると思います？ 悲しくて泣くと思います？ それとも、そんなわけないって怒ると思います？ 冗談でしょって笑うと思います？ 何も考えられないと思います？

5年前。母ががんになった。

夏の日でした。家に帰ると普段あるはずの母の車がない。「あれ？」と思いながらドアを開けました。「ただいま！」「お帰り。」返ってきたのは母ではなく祖母の声。「どうしておばあちゃんが家にいるんだろう？」「お母さんは？」聞きました。祖母は「もうすぐ帰ってくるから。」って。ちょっと買い物にでも出かけてるのかな。そのくらいに思っていました。しかし、母が帰ってきて、僕はとても大変なことが起きているんだと気付かされました。帰ってきた母は、今まで見たことのない表情をしていました。そして、いきなり涙を流し始めたのです。

がんになったと聞かされたのは、それからしばらくたってからのことでした。

当時の僕は今ほどがんについての知識はありませんでした。代わりに、多くの人の命を奪っているとても恐ろしい病気だという強いイメージがありました。だから、がんだと聞かされて、もうお母さんと会えなくなる。そう思いました。これまで当たり前だと思っていた生活。両親と僕、弟の4人で過ごした楽しかった思い出。それらすべてが崩れ落ちていくようでした。

僕たち家族からは笑顔が消えました。家族みんなで過ごす時間は減り、父と母、二人だけで真剣に話している姿を目にすることが増えました。その時の二人の表情や一人で泣いている母の背中。それらは目にするだけでもつらく、思わず涙が流れてしまうこともありました。

そんな僕たち家族がまた笑えるようになったのも、母のおかげでした。

闘病生活は、すごく辛かったんだろうと思います。抗がん剤治療でボロボロになっていく姿はもう見ていられないほどでした。

しかし、そんな中でも、母は一生懸命ごはんを作ってくれました。参観日には、これまで通り欠かさず学校に来てくれました。そうした日々の積み重ねの一つ一つから、「ああ、お母さんはやっぱりお母さんなんだ。」そう、実感することができました。

こうした変わらない母の愛情と、生きるために必死に頑張る母の姿に触れ、僕は、母の「命の輝き」を感じることができました。それは他の家族も同じだったのでしょ。僕たち家族は、再び団結し、立ち直ることができたのです。

母はよく言います。「生きているだけで十分。」「どんなに辛くても、地球は休まず回っているから、その流れに身を任せていたら抜け出せる。」母の姿を見てきた僕には、その意味がよくわかります。

だから、テレビなどで自らの命を絶ってしまった人のニュースを見ると、とても悲しい気持ちになります。

もし身近にそんな人がいるとしたら、あなたにできることとは一体何でしょうか。それは命について考えることだと思います。命について考えれば、その人に対して、命とは何か、それがどれほど大切なものなのかを伝えることができます。

そんなことは自分には関係ないことだと思いますか？ 遠いどこかの話だと思っていませんか？ しかし、絶対にいつか考える日が来るはず。その時に後悔しない選択をし、その誰かの大切な命を救える人に僕はなりたい。そして、これを聞いてくれているあなたにも少しでもいいので考えて欲しいのです。

「命とは何だろう？ どれだけ大切なものなんだろう？」

あれから5年が経ちました。今も母の治療は続いています。母が病院に行くたびに、悪化していないかと不安でたまらなくなります。また、有名人が母と同じ病気で亡くなったニュースを見れば、恐怖でいっぱいになります。

しかし、命が消えていくことばかりを恐れているのではなく、今ある命の輝きを大切にしていきたい。自分の大切な人の命を、そして自分の命を、精いっぱい輝かせていけるように。誰もが、その輝きを大切にしているように。

広島県中学校話し方連盟会長賞



まっすぐに、一生懸命に

尾道市立高西中学校

2年 ^{すぎ}杉 ^{はら}原 ^い伊 ^{おり}織

現在、新型コロナウイルス感染症の流行により、私達の生活は制限をされています。今まで当たり前に行っていたことができなくなって2年以上も経ちました。

現状にやるせなさを感じ、「新型コロナウイルスなんて流行しなければ」と思っている人もきっとたくさんいることでしょう。しかし、私はそうは思っていません。私が今思っていることは、「どうしたらウイルスと人間が共存できる世界を創れるだろう」です。

そんな世界を創ることができる職業が、この世にはあります。微生物病研究者、それが私の将来の夢です。

大阪大学に、微生物病研究所という施設があります。そこで働く研究者、学ぶ学生は、皆、自らその世界を切り拓いています。私もその一員になりたいと考えています。しかし、そう簡単になれるものではありません。高いレベルの知識と柔軟で豊かな発想力が必要です。「このままではだめだ。もっと勉強を頑張らないと叶えられない。自分がかつ勉強をやる環境に行かないと。」そう思った私は、将来の自分をイメージして、中学受験をしました。結果、私は志望校に行くことはできませんでした。自分ではやれることをやったし、頑張ったと思っています。しかし、私の「頑張った」は周りの受験生と比較すると、小さい「頑張り」だったのかもしれない。実際に受験会場には、私と同じように頑張ってきた人は数え切れないくらいいると実感しました。それと同時に自分の視野の狭さを自覚しました。

中学受験から約1年半。今も私は努力を続けています。あの頃と変わったことは意識です。目先のことだけにとらわれず、先まで考えて行動するように心掛けています。例えば、勉強では、定期試験はもちろん、塾での模擬試験でも自分の実力と伸びしろを見て分析し、もっと、合理的に勉強する方法を考えています。

また、多くの人の考えに触れたいと思い、放送部の姉の県大会を見学しました。そこでは放送部の方の発表だけでなく、アナウンサーとして働いている方や審査員の方のお話をたくさん聴くことができました。今の若者に求められていること、人の役に立つ人間になるにはどうすればよいかなど、自分の生活はこれでいいのだろうかと考えさせられるものばかりでした。そして、今の私にできることは、夢に向かって努力をし続けること、夢を具体化して、近づくためにはどんな努力をすればいいのか考えること、さらに現状に満足せず向上し続けようとする事だと思いました。

私の夢は微生物病研究者です。しかし、そこが最終ゴールではありません。研究者になっても自分を磨き続けていきたいと思っています。これからの人生で、たくさんの人やものに出会うことで、視野を広げていきたいと強く思っています。夢の実現までは、まだまだ遠いですが、着実に近づいていくために、これからも、小さな目標を立て、達成しながら一步一步、まっすぐに一生懸命に取り組んでいきたいです。

国際ソロプチミスト広島会長賞



繰り返す歴史の中で

広島市立城南中学校

3年 ^{なか}中 ^{しま}嶋 ^{くる}胡 ^み桃

歴史は繰り返してしまう。

私の曾祖父は広島原爆によって亡くなりました。7月のおわり、岡山に住んでいた曾祖父は戦争に向かうため召集されました。8月6日の朝、召集された曾祖父たちは、広島城にあった軍司令部の広場でラジオ体操をしていました。そして8時15分、原子爆弾が落とされ、被爆し、己斐小学校に運ばれ、9日目に息をひきとりました。その後、曾祖母のもとにその知らせが届きました。その時、私の祖父が、お腹の中にいたのです。祖父は産まれても、自分の「お父さん」と会うことができませんでした。祖父は、兄弟がいたから寂しくなかったと言っています。よく面倒をみてくれた3人の兄の存在が大きく、辛さをあまり感じなかったとも言います。物心が付いたときからずっとそばにいた人がいなくなれば、とても記憶に残ります。ですが祖父の場合、父の顔や容姿、声などが刷り込まれていません。そのため、他の家族と比較しても「うちの家は父がいないな」と思うくらいだったようです。しかし、年老いてから祖父は、被爆した場所や己斐小学校、原爆ドームなど曾祖父のゆかりのある場所を巡って、8月6日のとうろう流しによく来ていました。その姿をみていると、広島に来ることで、祖父は「お父さん」の存在を感じたい、大切にしたい、という思いがあるのではないか、と私は思わずにはいられませんでした。

現在、ウクライナとロシアの戦争がおこっています。あるニュースがとても私の心に残りました。ウクライナからたった一人で隣国のスロバキアに避難した少年の事です。3月4日、少年が住んでいたサポリージャはロシア軍により攻撃を受けました。少年の祖母は体が不自由だったため、母親は残して逃げる事ができませんでした。そのため少年は一人で、約1,126キロメートルを列車や徒歩で避難しました。少年はいつ攻撃されるか分からない恐怖の中で逃げたと思います。その後、無事家族と再会でき、少年に笑顔が見られました。その笑顔は二度と会えないかもしれない家族と再会できた安心からあふれ出たのではないのでしょうか。私は少年の強さや勇気に感動すると同時に、家族と会うことができなかった祖父のことを思いました。祖父も曾祖父と会えたならどんなにうれしかったでしょう。そして、一人で知らない国まで逃げきった11歳の少年が、こんなに頑張っているのだから、自分も何事も全力で頑張ろうと思いました。

私は生徒会執行部に所属しています。ある日、先生が、「ウクライナの子供たちに支援ができるプロジェクトをしようと思うんだけど…」と私たちに提案しました。すぐに私は、「やりましょう!」

と答えました。少しでも支援ができればいいなと思っていたからです。私たちが折った折り鶴は、再生紙でつくられたノートになり、ウクライナの子供たちに贈られるそうです。私は多額のお金を寄付することができないので、このような形でたくさんの人と協力し、支援できることがとてもうれしかったです。

戦争は私たちからたくさんものを奪います。家や家族、命。「二度と同じようなことがあってはいけない」と多くの人は言います。では、なぜ戦争は繰り返してしまうのでしょうか。宗教の違い、文化の違い、言語の違い、思想の違い、人それぞれの「違い」によって争いは起こります。私も友達と考え方が違ったとき、ケンカになってしまったことがありました。しかし、仲直りができました。なぜなら、その違いを理解し合ったからです。戦争も内戦もお互いを理解しようとするればなくなると私は思います。

私が今、望むことは戦争で悲しむ人がいなくなる事です。そのために私は被爆した人の話などを共有し合い、他国でおきた戦争を他人事ととらえないようにします。そして、みんなが平和について考えるきっかけをつくっていきたいと思います。常に、悲しむ人たちによりそえる自分でありたいです。

悲しい歴史は繰り返さない。このような言葉が聞ける日を私は待っています。

広島清流ライオンズクラブ会長賞



自分を見つめる

竹原市立賀茂川中学校

3年 ^お越 ^ち智 ^{みやび}雅

私は、人前で話すことに対して、強い苦手意識があります。今、この場に立っていることも、怖いと思ってしまいます。それなのに、どうしてこの場に立っていただけるのか。それは、中学校に入ってから、たくさんの経験を積み重ねてきたからです。

1年生の時、総合的な学習の時間で講師の先生がいらしゃったときに司会をしました。文化祭の発表では、クラスメイトと助け合いながら発表をしました。そうやって少しずつ人前で話す体験を積み重ねていきましたが、やはり不安感は強く、思い切ってやりきる！ということができませんでした。任せられた仕事を、なんとかこなしている。そのような状況でした。

そんな私に、大きな変化がやってきました。2年生の時、プロポーザル大会に参加することになりました。プロポーザル大会とは、広島国際空港が企画したもので、国内外の観光客に向けた「地元地域の魅力」をプレゼンテーションするというものです。このプレゼンテーションは、日本語部門と英語部門の2つでの発表があり、私は英語部門で参加することになりました。1か月という短い準備期間、さらに5分間という制限の中で竹原の魅力を語らないといけません。準備期間は短いのに、やることは膨大。不安しかありませんでした。でも、とにかくやるしかない！と思い、毎日がむしゃらに取り組んでいました。歴史や景色、動物の癒しを推す竹原の魅力が外国の方にも分かりやすく伝わるよう、話し方、身振り手振りを工夫しました。一緒に発表する友達や先生方、ALTの先生方と何度も話し合い、何度も何度も練習を重ねました。気づけば、最優秀賞を取るという目標を達成するために、殻を破っていた自分がいました。プロポーザル大会の結果は、最優秀賞。無我夢中で取り組んできたからこそ、より一層、結果に喜びを感じました。

皆さんは、苦手意識を持っているものはありますか。私は、やっぱり今でも、人前で話をする事です。しかし、その苦手意識を消すことはできなくても、乗り越えることはできます。何か新しいことに挑戦をしたり、苦手なことに向き合ったりすることは、本当に本当に、つらいし、大変だし、しんどいです。でも、それに立ち向かうからこそ、見える世界もあります。立ち向かった結果、今、このように私は人前で話すことが苦手だと、聞いている人に悟られることなく、主張することができています。それは、今までの積み重ねの成果。がむしゃらに取り組んできた結果です。

こうした経験を積み重ねていけば、新たな挑戦を行えば、人前で自分の姿を出すことの不安やためらいが少しずつなくなっていくと思います。私はこの経験を糧にこれからの自分を見つめ、いつかは苦手意識も和らぐよう努力を積み重ねていきます。

優 秀 賞



大雨とコロナで改めて感じた仲間が存在

山陽女学園中等部

3年 ^{たに}谷 ^{おか}岡 ^め芽 ^い依

私は、3年前、山陽女学園に行くことに決めました。なぜなら、どうしてもバレーを続けたいという強い気持ちがあったからです。父も母も私の気持ちを理解してくれ、背中をおしてくれました。期待と希望で胸いっぱいの私でしたが想像していた日常とは大きく違っていました。楽しみにしていた合宿、先輩達の試合も全て新型コロナの影響でなくなりました。でも、先輩達の心残りや両親への感謝の気持ちを返したいと、前を向いて自分で決めたバレーを頑張っていこうと、気持ちを新たに進んでいこうとした矢先でした。

8月の長雨。まるで、8年前の広島土砂災害の様な雨でした。8年前の土砂災害を機にできた砂防ダムの上から、土砂や木が流れていました。あの、嫌なにおい。激しく流れる用水路。家の裏の用水路がはらんし、濁流が家へ流れ込んできました。私達家族は、泥まみれになりながら避難し、避難生活をする事になりました。

バレー部の仲間が心配してくれて、すぐに連絡をくれました。私は動揺し、不安で仕方なかったのですが、仲間からの連絡に気持ちがフッと軽くなりました。はなれているのにまるで、そばにいてくれる安心感でした。そして、翌日には、仲間達が家族みんなで家の片づけを手伝いに来てくれました。私はみんなの顔を見るだけで、本当に嬉しく安心し、この仲間と一緒に良かったと心から思いました。避難生活をしている間も、仲間の皆は、私の心配をいつもしてくれました。

それから何週間か経った日。その仲間の一人がコロナにかかったという知らせがきました。私は、こんな身近な仲間がまさかコロナになるとは思ってもいなかったもので、どんな症状なのか、どんな気持ちなのか、考えるだけでいてもたってもいられませんでした。でも、会う事はできないのです。会えなくても、大雨災害にあった私を心配してくれて、はげましてくれた仲間に、同じようにしたいと強く思いました。今できる事は何だろう？ 本当にして欲しい事は何だろう？ 私は毎日、連絡をとり、何とかして仲間を助けたい。助けたいというよりも、よりそいたいと思いました。連絡をとっているとお母さんも感染していることが分かり、ご飯を届けたいと母に相談しました。きっと、母も同じ気持ちだったのだと思います。一緒に買い物へ行き、料理を作り、パックにつめ、母と一緒に仲間の自宅へ届けました。毎日、何が好きなのかな？ と考えるだけで、私も元気になりました。仲間も、毎日配達した後、食べ終わった後、とても嬉しそうに連絡をくれました。それだけで嬉しくて、仕方ありませんでした。

今、コロナや大雨災害で3年前私が思っていた生活とは大きく異なりました。でも、この状況だからこそ、改めてわかる事もありました。仲間が心からはげましてくれる事のありがたさ。私にとって、仲間が、どれだけかけがえのない存在であるかを思い知らされた事。いつもの普通の毎日が、何よりも幸せであると思える事もできました。これからも、大事な仲間と一緒に一つでも多くの思い出を作って、かけがえのない中学校生活を送りたいと心から思えるようになりました。大雨災害も新型コロナも辛い経験でしたが、そのおかげで、仲間のありがたさ、仲間の笑顔を見たいと思う私自身を家が大事な時に応援してくれた母のありがたさがわかりました。これからもこの気持ちを忘れずに感謝し、仲間も、日常の毎日も大切にしていきたいと思えます。



幸せのつくり方

坂町立坂中学校

3年 ^{おり}折 ^で出 ひより

みなさんは何があった時、幸せだと感じますか。美味しいものを食べた時、友達と話している時、何か目標を達成した時、色々あると思います。嬉しさや楽しさなど、その時感じる感情も少しずつ違うでしょう。今回はそんな幸せについて、私の考えた事をお話したいと思います。

私は幸せがもたらされる一つの要因に「助け合い」があると思います。と言っても、ただ助け合えば幸せになると言うわけではありません。もちろん、それもあるとは思いますが、重要なのはそこに込められた思いだと私は考えます。つまり、助け合いの精神です。心の底から助け合いの相手を想う気持ちを持った時、そこには特別な幸せがもたらされると思うのです。

私がこのように考えるようになったのにはきっかけがあります。

私は小学生の頃からクライミングが大好きで、今も続けています。また、練習とは別に月に1回、「もみじモンキー」というイベントに参加しています。これは障害のある人もない人も一緒にクライミングを楽しもうというイベントです。ここでは、沢山の人の笑顔が溢れています。それは、互いに助け合い、関わり合うことでクライミングを楽しんでいるからです。しかし、必ずしもこのような場で助けられているのが障害のある方だとは限りません。もちろん、物理的に言えば誰かの助けが必要なこともあります。ただもっと大切なところで私達は助け、助けられているのです。もみじモンキーでは誰かが登っていたら近くの人が必ず応援してくれます。障害のあるなしや初対面かどうかは関係なくです。別に誰かが登っていたら応援しなければいけないなんていうルールがあるわけでもありません。誰もが自然と相手の成功を祈り、「がんばり」と応援しているのです。登っている人がちゃんと上まで登れば、「ナイス!」というような言葉が飛び交い、拍手が起こります。また、登っている人が途中で落ちてしまえば、みんなで悔しがり、打開策を考えます。その場にいるみんなが自然と一体となって感情を共有しているのです。これはとても素敵なことだと、私は思います。

もみじモンキーでは誰もが相手の立ち場に立って自然と物事を考え、思い助け合ってクライミングを楽しんでいるのです。私にとって月に1回沢山の方と登るこの時間はとても楽しく、幸せなものに感じられます。これこそが助け合いの精神によってもたらされる幸せの形ではないでしょうか。

では、どうすれば助け合いの精神によって幸せのもたらされるコミュニティを築くことができるのか、答えは簡単です。一人一人が相手の立ち場に立って物事を考え、その人の役に立てたらいいなと思えるようになればいいのです。どうですか、答えはシンプルですね。しかしこれを日常生活にすぐに取り入れることは想像以上に難しいことです。もしもこれを完璧にできてしまう人がいたら私はその人のことをとても尊敬します。どんなに相手のことを想って行動できる人でも時には自分のしたいことを中心に考えてしまうことがあると思います。なぜそう思うかという、私自身、そうだからです。優しさを持って行動しようとしても、自己中心的な考えを完全になくすことはできません。しかし、それはきっとわがままなどではなく、人間らしさの一部であってごく当たり前のことではないかと思えます。だからまずは頑張ってみることが大事なのではないかと思うのです。それに心の底から相手を想っているのなら、その気持ちはきっと相手に届きます。はっきりとした行動に移せなくても、思いはきっと届くし、その思いはきっと幸せをもたらしはすです。

以上のことをふまえて、私はこれから生活していく中で、相手のことを思い、助け合いの精神を持つことを忘れず、努力するようになりたいと思います。みなさんも、助け合いの精神で幸せ溢れるコミュニティを創ってはみませんか。これを聴いて下さった方が助け合いによってもたらされる幸せについて、少しでも考えて下さったら幸いです。

優 秀 賞



小さなことでも

尾道市立御調中学校

3年 土 佐 心 優

「恨みによる殺人」「子供への虐待」「パワハラによる自殺」最近のニュースはどれもこれも恐ろしいものばかりです。日本はとても平和な国だといわれますが本当にそうなのかとあきれてしまいます。しかし、私がインターネットや実体験を通して見た、日本人の姿は確かに違ったものだったのです。

その話は2011年3月11日に起こった東日本大震災まで、遡ります。もちろん、私は2007年生まれで、まだそのときは幼い子供だったので覚えていません。それから数年経って私は一つの記事を見つけました。東日本大震災後の人々のとった行動についてのものでした。「コンビニで働いていたとき小さい子供が列に並んでいたんですけど、お菓子をやめて被災した人のために募金をしてくれました」「母さんが大量に豚汁を作っていたから、何かと聞いたら、被災した人のために配るんだってさ」「電車の向かいにいたギャルは電力節約のために髪を巻かなかっただけじゃないの」と知り、感動して涙が出ました。本当に感動しました。そして、同時に「もし、私がその場にいたらどうだろう。被災した人のために何かするだろうか」と考えました。何ができるのか考えたかどうかと。

2018年7月6日、それは突然起こりました。まだ、みなさんの記憶にも新しい西日本豪雨です。これは私の住んでいる広島や岡山を巻き込んだ大雨でした。川は氾濫寸前、道路は一部が崩れ、山はいつ土砂崩れが起こってもおかしくない状況でした。3日間ずっと雨が降り続け、4日目にやっとやんで、学校は休校、そのまま夏休みへと突入しました。私はすぐに、自分に何ができるのか考えるべきだと思いました。以前見た記事を思い出していたからです。何ができるのか考えたときに、真っ先に思い付いたのは、近所の人に水を配ることでした。その当時、私の住む御調町などでは豪雨災害の影響で断水となっていました。さいわい私の家は井戸の水を使用していたため、水道は止まらずに済んでいましたが、友達や近所の人たちの中には止まってしまった人も多くいました。私はペットボトルに水を汲んで1本ずつ配ってまわりました。私には自衛隊の人たちがしているような人命救助とか、そんなたいしたことはできません。でも、自分に何ができるのかを考えて、行動できたことが嬉しかったです。

調べてみると、西日本豪雨で被災した人のためにボランティアによる支援活動が積極的に行われていたそうです。また、多くの寄付金や支援物資が集められたり、不安や恐怖に悩まされている人々や子どもたちへのカウンセリングといった心のケアまでもが行われたりしていました。実際に、町内でも家が川の氾濫などで浸水してしまったところでは、たくさんの人が協力し合って復旧活動をしていました。そのおかげで、今があるのです。

このことから、私は「一人でも多くの人が小さなことでも一つずつ力を合わせる大切なのだ」とわかりました。今の日本はどうでしょう。人のために行動するという基本的なことを忘れていないのでしょうか。きっと、一人一人が小さなことでも人のために行動すれば、この日本は本当の「平和な国」になれるだろうと私は思います。そして今、世界では、半年以上にわたり、国どうしの争いで苦しみ続けている人々がいます。一人一人の思いと行動が日本のみならず、世界の平和にもつながるのではないかと思います。そのために私も、人のために行動することができる人間になりたいと思います。

優良賞



職場体験学習で学んだこと

三次市立布野中学校

2年 ^{ふじ}藤 ^{わら}原 ^{ただし}正

「100点でなくても、90点でいいんだよ。」

職場体験学習1日目に店長さんに言われたこの言葉は、僕にとって大切なものになりました。この言葉は、僕に自分を見つめ直すきっかけをくれたのです。

僕は、地元のホームセンターで5日間の職場体験学習を行いました。1日目に、「品出し」と言われる作業をしているとき、僕は、商品をきれいに並べるのに苦労して、時間ばかりかかってしまいました。

やっと終えて、次の作業に移ろうとしている時、店長さんが先ほどの言葉をかけてくださったのです。

「100点でなくても、90点でいいんだよ。」

僕は、はっとしました。

実は、その前に行っていた苗ものの水やりでも、30分ぐらいで終わるところを、僕は1時間かかってしまいました。「丁寧にやらなくては…」と思うと、なかなか次に進めなかったのです。

店長さんは、「100点でなくても、合格なら90点で十分。仕事は効率も大事なんだよ。」と教えてくださいました。

そのことを意識して次の作業を行うと、不思議なくらいにてきぱきと進み、時間内に終わることができました。早く終わった分、全体を見直して、気になるところを直すこともできました。

この言葉をきっかけに、僕は、普段の自分を振り返ってみました。

僕は、どちらかという「成功か失敗か」「100かゼロか」と考えがちです。テスト勉強でも、高得点をめざそうと意気込むのですがうまくいかないタイプです。たとえ合格点になったとしても、惜しいミスをして満点を逃してしまうと、そのことが気になってネガティブになっていました。何事にも完璧をめざそうとして、目の前の一つのことに集中してしまい、物事を平等に広く見ることができなかつたのだと思います。

もちろん、「目標は高い方がいい。最初から90点をめざすのはよくない。」という考え方もあるでしょう。しかし、「100点でなくても、90点でいい。」という言葉は、僕に10点分の考え方の変化をくれたのです。「合格なら90点でオッケー」と考えると、僕には、「次に進む勇気」や、「周りを見る視野の広さ」が生まれてくるのです。

今までは、一步踏み出す勇気がなかなか出ない僕でしたが、5日間の体験を通して、失敗を恐れず、いろいろなことに積極的に挑戦していきたいと思うようになりました。

まだ後戻りすることもあるのですが、「どんな結果が出るか」だけにこだわるのではなく、「一步踏み出した」「挑戦した」という結果を積み重ねて、一步ずつ大人に近づいていきたいと思っています。

優良賞



ありがとう，プロジェクトメンバー

尾道市立栗原中学校

1年 ^{かし} 榎 ^{もと} 本 ^{ゆき} 雪 ^の 乃

「友達と協力すれば、なんだってできる。」これは、私がそう思えた話です。

私が小学6年生の、卒業が近づいてきた11月の頃。私は仲の良い友達と、担任の先生方にサプライズで1年間の感謝の気持ちを伝える会を計画しました。私の学校は3クラスあったので、各クラスから3～4人くらいのメンバーが集まり、サプライズの会を計画していきました。私たちはこれを、サプライズプロジェクトと呼んでいました。会をするのは3月頃。まだまだ時間はありますが、私たちは毎日のように空き教室で話し合いました。この会は他の先生に言われてやったのではなく、自分たちで考えてやろうとしたことなので、全て自分たちで決めなければいけません。しかし、問題がいくつもありました。「コロナで制限がある。」「子どもだけでできることには限りがある。」「使いたい道具があるけど先生に許可をもらわないといけない。」そんな時、友達同士で協力しました。

「私の家、折り紙あるから持ってくるよ！それで花束を作ってプレゼントするくらいならできるんじゃない?」「おれ、コロナでもできること、何かないか調べてくるよ。」

一人一人が自分にできることを考えて行動するようになりました。一生懸命だけど泣き虫な友達。真面目な友達。あわてんぼうな友達。ちょっと天然な友達。マイペースな友達。性格も考え方もバラバラな私たちだけど、「先生に感謝を伝えたい」という気持ちはみんな同じでした。

冬休みになりました。私たちは家にクロムブックを持って帰り、それを使って計画を立てました。家が近い友達とは、直接会って話し合ったりもしました。寒い中、庭で30分以上話したこともありました。

サプライズプロジェクトをやっていく中で特に友達との協力を感じたことがあります。それはかざりつけ用のお花を作っている時です。お花は、お花紙を使って作ることになりました。しかし、やってみると、それぞれ、得意不得意があるということが分かりました。例えばお花紙を折ることができても、きれいに開けない友達もいました。開くと左右に分かれてしまうため、バランスを良くするのが難しいからです。そんな友達は折る担当になりました。一人が折って一人が開く。慣れてくると、10分間で10何個も作れるようになりました。そんな時は、友達がいて良かったと思いました。一人だったら、たくさん作れていなかったかもしれません。協力することの大切さに改めて気付きました。

2月になると、サプライズの会の細かいことも決まっていきました。会は、3月9日、体育館でやることにしました。友達と二人で校長先生にお願いをして、授業を1時間、使わせてもらう許可も、もらいました。

そしてサプライズ当日。一人一人が自分の役割をしっかりとこなしました。あいさつや司会などをしてくれる友達もいました。裏で指示を出したり、照明を担当したりしてくれる友達もいました。そして会が終わりました。大成功でした。約5か月余り、計画できて良かったと思いました。やめなくなることもありました。けんかをしたこともありましたが、でも、友達がいないければ、きっとできなかったことだと思えます。

私がこのサプライズプロジェクトをやって学んだことは、協力することの大切さです。プロジェクトメンバーと笑って泣いて喜んだ時間から、友達の大切さを感じました。かけがえのない、大切な思い出です。あの日のことを、私は絶対に忘れません。



よりよい校則をつくるために

広島市立日浦中学校

2年 ^{くわ}桑 ^{やま}山 ^{のど}和 ^か花

今回、私は、「よりよい校則をつくるために私ができること」を考えました。公立や私立を問わず、国内のほとんどの学校に存在している校則。そんな身近な話題に目を向けてみました。

私がこの課題を選んだのは、大きく2つの理由があります。1つ目は、自分の通っている学校の校則や校則が定められた理由などに疑問を抱くことがあったからです。例えば、肩についている髪はじゃまだから結ばなければならないという校則です。それに対して私は、「肩についている髪がじゃまかどうかは自分が決めるものじゃないのかな」という疑問を抱きました。

2つ目は、インターネットを使って、校則について調べていたときに強く感じた思いでした。インターネット上には、「こんな校則があって、こんな辛い思いをした。」「この校則はどうかと思う」など様々な意見がありました。私はそれを見て、「どうしたら解決することができるだろうか」と考えるようになりました。

では、「校則」とはどのようなものなのでしょう。校則とは在校生に関わる定めであり、各学校によって異なり、生徒がよりよく成長することにつながるものです。「校則」すなわちルールを守ることは社会で生活していく上でとても大切です。ですが、そのルールが必要以上に生徒の自由を奪い傷つけてしまうのであれば、そのルールは必要がないのではないのでしょうか。

生徒が実際に辛い思いをした校則について調べた中で私が1番ひどいと感じた校則は、「下着の色は白」というものです。この校則が定められた理由は、「透けないようにするため」です。この校則を守っていなければ下着を脱がなければならないことになってしまいます。替えの下着もないため、脱いでしまうとより透けてしまうこととなります。さらに女子生徒の下着を男性教師が確認することもあるそうで、それはまさに、セクハラのようなものです。実際に下着を確認された生徒は、「どういう意図や根拠があってルールを決めているのか全く理解ができない」と言っていました。この下着についての校則は、特に多くの学校で定められており、嫌だと感じる人が多くいました。他にも「髪を結ぶときは耳より下でなければならない」や「部活時の水飲み禁止」など多数挙げられます。このような校則は、プライバシーや個人を尊重し自由を守ることができていないルールだといえます。「法律よりも校則」という考えが、今の校則の実状です。

では、この実状をどのようなものに変えていけばよいのでしょうか。私は、ルールを強要するのではなく、ルールがなくても自分たちで秩序を守ろうという意識に変えていくべきだと思います。みんなが楽しい学校生活を送るために、必要なルールを生徒自ら考えて決め守ることが大切なのです。ルールを強要するのではなく自ら秩序を守ろうという意識を、社会全体で育成していくべきだと思います。

今回、日本の校則の実状を調べて解決法を考えてみましたが、私たちにはどのようなことができるのでしょうか。私は、感じたことを自分の学校やまわりの仲間に伝えていくことが大切だと思います。感じたことを伝えていくことで話し合いの輪ができると思います。思いを言わなければ分からないことはあるし伝えることで私の身近にある校則から解決していくことができると思います。私は「ここはもっとこうの方が良いかもしれないな」と生徒自身で考え、おかしい校則を改革していくことで、「秩序を守る」という行為が自然にできるようになるのではないかと考えます。

私が伝える勇気をもって、時代に合わせた学校をつくっていきたいです。そのために、私は、生徒会執行部に立候補して、よりよい校則をつくるための第一歩を踏み出します。私の意見発表を聞いた人たちにも、身近な課題に目を向け、声をあげてほしいと強く願っています。



正直に生きて

庄原市立口和中学校

2年 ^{なが}長 ^{たに}谷 ^{ひろ}祐 ^き規

「逃げるなァ!!」

僕は宿題をやっていない時や、何か自分がミスをしてしまった時は、毎回嘘をついてその場を乗り切っていました。嘘をついたらその物事を放り投げることができたからです。

しかし、そんな自分を変える機会が訪れました。

それは、小学6年生の時です。授業中、復習プリントをやっていた僕に、当時の担任の先生が、「ん？ ひろきー？ 今日の宿題出てないぞ？」と言いました。

宿題をやっていなかった僕は、いつものように、「その宿題どっかに無くしたんですよ。言うの遅くなってすみません。」と答えると、ずっと嘘をつき続けたせいか、「本当に？ 本当にどっかに無くしたのか？」

僕は、バれてしまう焦りと後悔に襲われていました。なんとか誤魔化そうと考えたものの何も思いつかず黙っていると、

「逃げるなァ!!」

と、担任の先生の大きな声が、校舎中に響きました。

「このまま嘘をつき続けたら、ずっとこのままだぞッ!!」

このとき初めて、自分が面倒なことから逃げていたということに気がつきました。先生に言われた言葉は僕にとってはきつかったけれど、どこか心が楽になったように感じました。逃げていた自分自身は楽だったけれど、自分の心を犠牲にしていたということに気がつきました。僕は「変わりたい」と心の底から思いました。

それからは、宿題を提出できない日もあったけれど、全てを正直に言うようにしました。怒られるのは嫌だったけれど、正直に言うとなぜか心はスッキリして、少しずつ自分のことを好きになっていました。

自分のことを好きになり、認められるようになると、僕は将来の夢を見つけることができました。

僕は小さい頃から絵を描くことが好きでした。だけど、人に見せるのは恥ずかしくて、家で一人で描いて楽しむだけでした。しかし、あの日を境に変わった僕は、自分の絵をみんなに見せるようになりました。それは、ありのままの自分を伝えたいと思えるようになれたからです。

みんなは絵を見て、「ひろきすげーな!」「こんなこともできたんだ!」と温かい声をかけてくれました。自分が変わることで、自分の周りが動き出しました。そして、僕は夢を見つけました。

僕が見つけた将来の夢、漫画家になることです。そして、世界中の人に愛される作品をつくることです。

そのために、ネットや雑誌からたくさんのことを学んでいます。一つは絵の勉強です。キャラクター一人一人に命を吹き込むようなポーズの描き方や、迫力のあるような描き方について調べて実際に描いてみえています。もう一つは、人を惹きつけるための勉強です。読者が伏線を楽しめるような物語の書き方を調べています。自分でやる漫画のための勉強は、とても楽しいです。

将来自分が描く漫画は、自分の心をすべて表現して、描きたいものをすべて描いて、世界に一つだけの面白い漫画にします。皆さん、その時はどうぞ手に取ってみてください!



気付かせてくれた言葉

大崎上島町立大崎上島中学校

3年 ^{こん}近 ^{どう}藤 ^{あい}愛 ^か花

「あんたらは笑顔のときが一番かわいいんじゃないけん。」

これは、現在、所属しているソフトテニス部のコーチからもらった大切な言葉です。もともと、私は、コミュニケーション能力が高いわけではなく、小さな失敗でもすぐに落ち込んでしまう性格でした。しかし、この言葉にある「笑顔」を大切にできるようになってから大きな変化がありました。

中学校に入学後、未経験だった私を合わせて3人がソフトテニス部に入りました。その後、1年の7月に、違う小学校出身の同級生とダブルスのペアを組むようになりました。初めのうちは、ただ話すことさえもドキドキして上手くやっていたかとても不安でした。しかし、ネット打ちや基礎練習を頑張っていくうちに、ソフトテニスの技術も身につけてきて、ダブルスの練習や試合がとても楽しくなっていました。私たち2人は、同じクラスということもあって、ソフトテニス以外にもたくさんのお話をしました。部活動を通して、新しい友人ができ、その友人と一緒にソフトテニスの実力が上がっていることを実感できることがうれしくて、部活動に前向きに取り組んでいました。

しかし、2年生になると、私の部活動に対する思いは変わってしまいました。これまでは楽しかったダブルスの雰囲気の変化し、試合では勝てなくなってしまったのです。練習試合では、ペアがイライラしているように見え、自分もそれを気にしすぎてミスを連発してしまい、いいプレーができない。このようなことが続いていきました。

その時の私には、上手くいかない理由が分かりませんでした。毎日の練習は一生懸命頑張っているし、試合に勝ちたいという気持ちもある。それなのに上手くいかない。私は次第に、部活動に行くこと自体も「ちょっとしんどいな」と思うようになりました。

そんな中、ある練習の休憩中に、コーチが私たちに声をかけてくれました。「顔がこわばるとるよー。あんたらは笑顔のときが一番かわいいんじゃないけん。1点のミスで落ち込みすぎるな〜。」

この言葉を受け、私は今までのことを振り返りました。すると、ソフトテニスの技術が高まるにつれて、勝ち負けだけを意識してしまい、「笑顔」でソフトテニスを楽しむことができていなかったことに気がきました。

それからの私は、「笑顔」でいることを心がけるようになりました。特に、試合中は、「笑顔」で「ナイス!」「ドンマイ!」などの声をよく出しました。すると、不思議なことに、ペアも「笑顔」でいることが増え、ミスをして二人とも次の点を取ろうと前に進めるようになりました。今はまた、ソフトテニスを楽しかったころの気持ちで練習に励んでいます。

この部活動での経験を通して「笑顔」ってすごいなと思いました。「笑顔」はしんどいときや辛いときの雰囲気や流れを変えることができます。また、一人の「笑顔」が源になって周りの人に伝わり、それがさらに周りの人にも広まっていきます。一人の「笑顔」は、周りにいる多くの人を幸せにする大きな力を持っているのだと思います。

もうすぐ私は部活動を引退します。そして、これからは将来に向けて勉強に励みます。これからの人生では、しんどいことや上手くいかないことにたくさん直面すると思いますが、そんなときだからこそ、「笑顔」でがんばることを宣言します。この「がんばる」には、努力するという意味の「頑張る」に加えて、「顔を晴れやかにする」という意味の「顔晴る」思いを込めました。

これからも私は「笑顔」を大切にできる人であり続けます。そして、少しでもみんなの幸せの源になりたいです。

優良賞



フライングの先へ

広島市立三入中学校

2年 ^{うえ}上 ^{はら}原 ^{ひろ}弘 ^む夢

「オン・ユア・マーク」僕は深呼吸をして目の前に続くレーンを見つめて一礼します。スタートラインに指をつけ、「セット」の声で腰を上げました。そして我慢ができずに思わず一步踏み出したその瞬間、ピストルの音が「パン」「パパン」と2回鳴ったのです。「フライングをしてしまった」この事実が何度も頭の中をぐるぐる回り、僕の顔はどんどん熱くなっていくのがはっきり分かりました。僕はそのまま退場しました。

これは、7月3日に行われた通信陸上競技大会の2年生男子100メートル競走の予選での出来事です。初めて掴んだ大会への出場権だったのに、僕は走ることができませんでした。

僕は小学校の頃から走ることは得意だったので、中学生になったとき迷わず陸上部に入部しました。「みんなになんか、余裕で勝てる。俺は速いから練習なんかしないでいいや」僕はずっとこう思ってきました。だから初めての陸上の大会で、僕よりずっと速いタイムの人がたくさんいても、「やる気になれば余裕。本気になれば勝てるし」といつも心の中で思っていました。だから、6月の大会で、通信陸上大会に出場するための、標準記録を突破できたときも、「こんなの余裕のタイムだし。なんでみんな出来んのんじゃろ。これでみんなに自慢できる」と調子に乗っているいつもの僕がいたのです。

いつもの僕は、学校生活でも、友だちと悪口を言い合って笑ったり、教科によっては適当にして騒ぐこともあります。特に2年生になってからは、ある時はトイレの個室で、遊んでいたのが見つかって先生に呼ばれ、またあるときは、うその情報を流して友だち同士をけんかさせたりと、迷惑をかけることを楽しんでいるところがありました。しかし、そんな僕に困ったことが起きたのです。

通信大会への参加資格の第一条件に、「学校長が参加を認めたもの」と書いてあったのです。僕は同意書を片手に、担任の先生や校長先生に参加を認めてもらいに行きました。思った通り、すぐには了承してもらえません。担任の先生に、「あなたの生活態度は問題ないのですか」と聞かれ、「ノープロブレムです」と答えると、無言で見つめられ、そのまま同意書を持っていかれたりもしました。校長先生に、「部活で活躍する部分だけではなく、学校生活全体を見ていますよ」と言われながら、やっと了承していただいたのは、大会前日のことでした。

僕は学校生活をなめていました。勉強なんかあとから試験週間に復習すればいい。友だちも、僕が楽しいように動かせばいい、部活も適当に走っとけば速くなる。周りの大人もうそをついてごまかせば、簡単にだますことが出来る、と。それで楽しくやってきました。けれどその、いい加減に楽しんでいた日頃のせいで、僕はフライングをしたのです。

あの日から僕は、部活は本気で頑張ろうと思い、練習方法を変えました。すると日常生活の気持ちにも、少しずつ変化が出てきました。友達が悪ふざけをしていても、落ち着いて対応できるようになったのです。「僕は変わった」そう思っていました。けれど、夏休みは海やプール、友達と遊ぶことを優先してしまい、部活をたくさん休んだのです。「がんばります」は簡単に言えるけど、「頑張り続けること」は簡単ではありませんでした。だけど僕は頑張りたいです。

僕は、頑張り続けた次の世界に行くため、これからも日々頑張り続けていきたいです。

優良賞



まず、「心の防具」さらに…

広島市立瀬野川中学校

3年 ^{たに}谷 ^{むら}村 ^{さく}咲 ^ら蕾

「ヘアドネーション。」みなさんは、この言葉を聞いたことがありますか。「ヘアドネーション」とは、事故や病気で脱毛してしまった18歳以下の人たちのために、無償で人毛のウィッグを提供する活動です。ではなぜ人毛のウィッグが必要なのでしょう。それは、必要としている人たちの多くが治療などの過程で肌が敏感になっており、人工毛だとかぶれなどの炎症をおこすからです。また、人工毛のウィッグは不自然に見え、ひとめで分かっけてしまいます。病気などで脱毛してしまった人は、人目を気にします。ウィッグを必要としている子供たちは、装着しないと他人の目が気になって、学校へいけなくなってしまう子もいるそうです。ウィッグの装着を「仕方なく」している子もいるのです。だから、炎症も少なく、自然な人毛ウィッグは、いわば「心の防具」だと思うのです。

私はヘアドネーション活動を支持しています。ウィッグを必要としている人達の助けになるならという思いで、髪を伸ばし始めました。しかし、すぐにそれは簡単なことではないと分かりました。私はショートヘアだったのです。提供するには髪が31センチ以上必要で基準に達するのにかなりの時間を要します。実際、小学校6年生から伸ばし始めて中学校2年生まで3年という年月がかかりました。その間、少しでもいい状態の髪を提供できるように努力しました。トリートメントはもちろんのことヘアゴムで髪を束ねる際摩擦で髪を傷めないために、きつく結ばないように気を付けました。一方で、事情を知らない人から「暑いじゃろう。髪切ったらすっきりするよ〜。」とげんそうな顔で言われて悔しい思いをしたこともありました。切ってしまうと人から指摘をされないだろうし、髪も心も軽くなるけれど…。ウィッグを必要としている人たちの思いを考えると、踏みとどまることが出来ました。

3年かけてやっと提供できる長さまで髪が伸び、ヘアドネーション活動に賛同している美容室を探すことにしました。賛同美容室でなくてもカットは可能です。ですが、カットした髪のまとめ方や、濡らした状態で送ってはいけない等のルールがあります。だから、理解している人に切ってもらったほうが、安心だと思ったのです。ところが、私の住んでいる地域には、一軒も無かったことに衝撃を受けました。結局、私は遠くにある賛同美容室を見つけ、そこで髪をカットすることにしました。

私はとにかく、多くの人にヘアドネーション活動を知ってもらいたいのです。参加する人が増えればより多くの人毛のウィッグを作れるようになるという思いもあります。が、それ以上に、活動を知ることによって、「どうして人毛のウィッグが必要なのか」皆さんに考えてほしいと思ったからです。人毛のウィッグは炎症も少なく、自然で恥ずかしい思いをしなくて済む、いわば「心の防具」です。本当はウィッグをつけないで、ありのままの状態の自分を認めてほしいと願う人もいます。ですが、見た目が稀有な人には、他人の視線が冷たいというのが現状です。だから、「心の防具」は必要なのです。

「ヘアドネーション」それによって作られる人毛のウィッグ。他人の視線から守る「心の防具」としてだけでなく、純粋におしゃれを楽しむアイテムの一つというような「心の潤い」になればと願っています。そのために、私はこれからも「ヘアドネーション」、この活動を続けていきたいと思ひます。

今、18センチ。あと2年かかるかなあ、2回目は。

基準特別賞



力のおすそわけ

広島市立可部中学校

1年 ^み三 ^{うら}浦 ^さ佐 ^わ和

「力」という言葉を辞典で調べると、何かをしようとするとき、また、何かを動かす力と出てきます。私は、辞典には載っていない力を、とある人から教えてもらいました。

その子は、初めて会った時、手をにぎってこう言ってくれました。

「アンニョハセヨ。」

緊張と不安とが交じった声でたどたどしく言っていました。私は当初、「外国人の子と仲良くなれるのかな?」「どう接すればいいのだろう?」

と手探りの日々でした。そんな日が続いたある日、給食を食べているのがその子と2人だけになってしまった時がありました。「早く食べ終わろう。」と、私は気まずさのあまりその子と関わろうとしていませんでした。

そう思って立ち上がった時、

「あの～昼休み草つき? やりませんか?」

と話しかけてくれました。私は思わず、

「はい!」

と、学校中に響く声で言ってしまいました。すると、その子は、

「ブッアハハハ。おもしろいですね。」

と習いたての日本語を使って言ってくれました。私は、それまで韓国人は日本人が嫌いだと思っていたので、あっけにとられました。「慰安婦問題」という何だか暗い言葉をテレビで見て以来、私は韓国の悪いニュースばかりが目に入って、ずっとモヤモヤしていました。しかし、そんな私をあの子が一瞬にして吹き飛ばしてくれました。それからは、毎日のように一緒に遊んで楽しい生活でした。

ところが、そんな日々は突然終わりを告げました。転校が決まりました。最初はわけが分からず、何をしても身に入らないつらい日々でした。しかし、周りの人のおかげで立ち直り、前へ進むことができました。

引越し当日、母から

「これは、あの子が三日三晩かけて作ったんだよ。」

と手作りのうさぎの人形をもらいました。あざやかなピンクと冴え冴えとした白とが私の心に深くしみわたりました。私は、「何でもっとさようなら、ありがとう。」と言わなかったのだろう、と思いました。

次第に何とも言えない、むなしさ、悲しさにおそわれました。しかし、母からは

「頑張って、という意味で作ったんだよ。そういう気持ちになっちゃだめ。」

と、母の一言に救われて、前向きに捉えることができました。

そんな私も中学1年生。私は卓球部に入り日々精進する毎日。私が準備や片付けに手こずっていると、笑って手伝ってくれる先輩。その背中が、ちっちゃいけど大好きです。最初は、中学校の先輩は怖いと思っていたけど、卓球部だけではなく、他の部活でも優しい人ばかりです。心の底から、「この土地に来て良かったな。」と思いました。辞典には載っていない力とは、すなわち人を笑顔にする力だと思います。私はいつも笑顔になる力をもらってばかりです。

私には、NPO法人を作るなど、大きな勇気のある行動はできません。しかし、あの子のように、温かい手でにぎって、ほほえみながら人に寄り添い勇気を与えることはできます。だから、ほんのささいなことでも良いので、みなさんもご一緒に「力のおすそわけ」をしてみませんか。

小さな努力の積み重ねが大きな力になるのです。たとえ小さな力でも協力することによって、大きな力になるのだから。



審査員長

比治山大学非常勤講師

和田 晋

審査員11名で厳正なる審査をさせていただきました。その中で話合われたことを含め、皆さんへ審査に関わることを報告させていただきたいと思えます。

まず2,756名の応募者の中から選び抜かれた16名の発表者の皆さん、本当にお疲れさまでした。私は「皆さんが今どのような気持ちか」ということを一番大切にさせていただきたいと思っています。「やりきって良かった」、そういう満足感があれば、その気持ちこそを大事にしてください。そしてこれからの人生のステップに活かしてさせていただきたいと思えます。今私がこうして話している間も、この後の審査結果の発表が気になると思えます。皆さんは今日勇気を奮って発表されましたが、足は震えていたかもしれませんね。私たち審査員はこの場で一生懸命自分の気持ちを伝えていただいたことに心から敬意を表していますし、これからの皆さんに大いにエールを送りたいと思っております。皆さんに改めて心から拍手を送りたいと思えます。会場の皆さん、発表者に拍手を送りましょう。

今日の最初の基準発表してくださった三浦さんは1年生です。1年生が堂々たる発表をさせていただいた後に15名のとても意義のあるエネルギッシュな発表に繋がっていったと感じました。

昨年度はコロナの影響により、この会場に審査員だけが集まって、発表者の動画をもとに審査をしました。その審査はとても難しいものでした。それぞれの学校で録画された動画を画面を見て審査を行いました。審査員の中にはマスコミ関係の方もいらっしゃって、「慣れていてもカメラに向かって話をする、意見発表をするということは非常に難しいこと」と話されていました。昨年はこの大会史上初めて、その難しい審査を行いました。今回は例年どおり発表者が一堂に介して堂々と意見発表をすることができました。そのことを審査員はともうれしく思えますし、印象に残る感動的な発表と一緒に体験できたことを共に喜び合いたいと思っております。

審査の内容はご存じのように「内容面と論理性がきちんと一貫性があったか」ということと、もう半分は「発表態度と表現がどうだったか」、この二つを合わせて審査を行いました。その観点から気づいた点を皆さんにお伝えしたいと思えます。

まず、一つ目は、今年はほとんどの方々が自然な話し方で皆に伝わりやすいように発表いただいたこと、自分でよく考え抜いて自分の考えを自然な形で皆さんに届けようとしていた点が強く印象に残っています。審査員はそれを高く評価しております。ただ、注意をさせていただきたいのは、「身振り手振りを入れて、より効果的な発表を」と考えられている方もいましたが、身振り手振りで自分の意見を伝えるということは難しいことです。アナウンサーの方々が身振り手振りで報道をなさらないのも、そこに訳があると思えます。自分の声を最大限に活かして伝えることが大切です。声にも表情があります。自分の声の力を信じて発表することが一番効果的なのではないかと考えます。

二つ目に、今年はこちら数年の間で初めて社会的な現実、コロナ、戦争ということについて正面から向き合って発表されました。私はこれまで、「思春期の皆さんが社会で起きていることについて自分の意見をなぜ発表しないだろうか」という気持ちがずっとありました。今日の発表では、直接戦争を扱ってなくても、直接コロナに触れていなくても、その背景に戦争の影、あるいはコロナの影というものが潜んでいる発表が多くありました。逆に言いますと、これこそ私たちが生きている社会の現実であり、それを直視した発表でした。その社会現象の中から自分の体験を通して素直な意見を出し合っていたいただきました。今日の発表はまさにそういう発表であったと思えます。その点で現実は一層厳しくとも、そこから目を背ける皆さんではないことに心から敬意を表したいと思えます。

また、自分自身の弱さや失敗をストレートに表現されている発表もありました。審査員からも「こうした発表はとても素直に自分の気持ちを表現していて好感が持てた」と高く評価されていました。私も

確かにそう思いますし、肝心なことはこれからですね。「これから自分はどんな生き方をしようか」いう自分の未来づくりに反映させていただきたいと、審査員一同、心から願っております。

課題点をお伝えします。今後の皆さんに期待するがゆえに厳しいことを申し上げますね。

まず一点目、原稿は素晴らしくても発表に自信がないとそれは審査員にも聴衆にも伝わってしまいます。皆さんが原稿を手にし、不安だから原稿について目が行くという気持ちはよく分かります。しかし、目力を使って「会場の皆さんに自分の意見を真剣に伝えたい」という相手意識に立った発表の仕方が皆さんならば必ずできます。自分を信じて「原稿を見なくても大丈夫」というぐらいの練習を重ねていただきたい。これは今後の課題にしてください。

二点目は、発表の入り方にもっと慎重になり、工夫をしていただきたいこと。自然な話し方であっても、入るときの言葉、それはタイトルよりも聴衆に影響を与えます。その入るときの言葉、さらに言えば表情、そこをもっと意識をして、その発表の冒頭を工夫したら、「もっと素晴らしい発表になった」との声がたくさんあったことをお伝えします。

三点目は、もっと自然かつざくばらんに、広島らしい発表があってもいいのではないかと、例えば友達との会話だったら広島の方言をもっと堂々と使っていい。ましてやこの大会は全国大会に繋がっています。「広島らしさに誇りをもって広島弁がもっと出てもいいのでは」という審査員の声もありました。形どおりの発表で終わるのでなく、自分らしさというのは、広島らしさでもあるかもしれません。

四点目ですが、審査員にはマスコミ関係の方もいらっちゃって、その方々から提言をいただきました。「ネットの情報、マスコミの情報を疑ってかかってほしい」ことです、それは、今日の発表の根拠になり話題になっているけれども、「皆さんにはもっと批判的に、その一つの情報について調査をし、確かめて、自分の学んだこととして自信をもって発表をしていただきたい」という願いが根底にあります。今、世界でいろいろな情報が飛び交っています。ウクライナの戦争もそうです。その内容は全て本当で事実でしょうか。そのような情報について皆さんには「社会の主人公として一つ一つのことについて精査していただきたい」と願う声がありました。今日堂々と発表された16名の皆さんの今後に期待をするがゆえに、このような厳しい声もそのまま伝えさせていただきました。

現実には、このコロナ禍で練習もしにくいことや、その他にも厳しい状況がたくさんあったと思います。それを乗り越えて、今日16名の方がここで堂々と発表できたことに審査員一同、本当に良かったと思いきり拍手を送りたいと思っております。実は今日、16名全員がここに無事集まることすら奇跡に近い状況だったかもしれません。そのような状況を乗り越えて皆さんが今日、堂々と発表を終えられたことを心から良かったと思っております。

結びに、私個人から皆さんへのエールを込めて、二つ伝えさせていただきたいと思っております。言葉は力です。皆さんはコロナや戦争、友達や家族などいろいろな発表をされましたが、心から信じていただきたいことは言葉には力があるということです。言葉を実際に使ったときに必ず人は反応するし、人と繋がっていくと信じています。言葉の力を忘れずに、その言葉を使って堂々と人と繋がっていく人になってください。それによって多くの困難なこと、特に暴力問題や戦争問題は必ず乗り越えていけると信じております。

もう一点は、この大会で発表された先輩方についてです。ここ広島から全国へ堂々と発表した先輩たちがたくさん存在します。そして、その発表した先輩方がその後どんな生き方をしているかということです。私が知っている一人は平和問題を言葉で終わらせず、自分の生き方に反映させて今大学生活を送りつつ、平和研究を真剣に取り組んで、近い未来には遠いウクライナやアフリカの紛争地へ飛んでいきたいと考えています。この大会で経験したことを基点に、未知の新しい世界に羽ばたこうと考えているのです。この大会への参加に誇りを持ち、自信をもって今後の皆さんの生き方を堂々と創り出してください。

今日この発表を支えていただいたご家族の皆様、学校関係者の皆様、そして主催者の皆様、審査員を代表して心からお礼を申し上げます。私は今日の16名の皆さんの発表を聞き、今、大人とこの社会が試されていると思えました。この若き皆さんの発表を大人がまず真摯に受け止めて、大人に何ができるのかということを実際に考えていきたいと願っております。

以上、審査会の中で話し合われた内容をまとめながら、皆様へ率直に報告をさせていただきました。ありがとうございました。

(以上)

「少年の主張」・中学生話し方大会2022

第44回「少年の主張」広島県大会開催要領 第56回中学生話し方広島大会開催要領

- 1 趣 旨 国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子供たちには、論理的に物事を考える力、自分の主張を正しく伝える力、広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につけることが求められている。
この大会は、中学生が話すことによって伝える力を育み、学び合う機会となるとともに、意見発表を通して、中学生への理解と認識を深めてもらうことをねらいとする。
- 2 対 象 広島県内の中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議、広島県中学校話し方連盟
独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 4 協 賛 国際ソロプチミスト広島、広島清流ライオンズクラブ、
公益財団法人広島青少年文化センター
- 5 後 援 広島県、広島県教育委員会、広島市、広島市教育委員会、広島県公立中学校長会、
広島県私立中学高等学校協会校長会、中国新聞社、NHK広島放送局、中国放送、
広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島
- 6 開催日時 令和4年9月3日（土）10：00～14：30
- 7 日 程 9：30～10：00 受付
10：00～10：15 開会行事
10：15～12：30 発表
12：30～13：30 出場者記念撮影、昼食
「少年の主張」全国大会のDVD上映
13：30～14：30 審査発表、表彰、閉会行事
- 8 開催場所 広島県社会福祉会館 2階 講堂（広島市南区比治山本町12-2）

（注）新型コロナウイルス感染症の状況によっては、日程及び運営等を変更する場合があります。

- 9 発表内容 次のA、B、Cの中から、日ごろ心に思っていること、考えたことや感銘を受けたことなどを、自由でユニークな発想と、飾り気のない言葉でまとめたもの。
なお、未発表、自作のものに限ります。
また、商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにしてください。
A 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
B 家庭、学校生活、社会（地域活動）または、身の回りや友だちとの関わりなど。

C テレビや新聞などで報道されている社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

- 10 発 表 小道具は、使用しない。
発表時間は5分程度（目安として400字詰め原稿用紙4枚程度）
ただし、6分を超えるものは審査対象外となりますので、ご注意ください。
- 11 応募方法 申込書に原稿を添えて、中学校長を経由して提出する（原稿は返却しない）。
ただし、市町、青少年育成市町民会議等の類似の大会で入賞した中学生の応募も可とする。
この場合、市町等においてその旨を付記して、市町等から提出するものとする。
原稿は原則400字詰め原稿用紙（A4判縦書き）を使用すること。（学校等で使用されるB4判縦書きも可とする。）
- 12 申込締切 令和4年7月29日（金）必着
- 13 事前選考 提出された原稿を主催者において審査し、大会出場者を決定する。なお、大会の出場資格を得た者については、各中学校長等あてに8月中旬に通知する。
- 14 審 査 審査は、学識経験者、マスコミ関係者、関係行政機関の職員、（公社）青少年育成広島県民会議及び広島県中学校話し方連盟並びに協賛団体の代表者によって構成する審査会で行う。
- 15 表 彰 広島県知事賞、（公社）青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞（各1名）、優秀賞（若干名）及び優良賞を選考し賞状を贈る。
- 16 副 賞 この大会で、広島県知事賞、（公社）青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞を受賞した5名には、副賞として海外研修が（公財）広島青少年文化センターから授与される。
時 期：令和5年夏休期間の5日間（予定）
訪問先：大韓民国（予定）
- 17 そ の 他 この大会で、広島県知事賞を受賞した者を、独立行政法人国立青少年教育振興機構主催の「少年の主張」全国大会（11月13日（日）東京で開催）への出場候補者として推薦する。
- 18 問い合わせ先 公益社団法人青少年育成広島県民会議「少年の主張」係
〒730-8511 広島市中区基町10-52（広島県環境県民局県民活動課内）
電 話 082-513-2742
ファクス 082-511-2173

審査員及び審査基準

1 審査員

審査員長	和田	晋	比治山大学非常勤講師
審査員	伊丹	新	NHKシニア・アナウンサー
//	江種	則貴	公益社団法人青少年育成広島県民会議副会長
//	大久保	和子	国際ソロプチミスト広島会長
//	塩田	ひとし	広島清流ライオンズクラブ会長
//	谷崎	栄子	広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
//	田原	直樹	中国新聞社論説委員
//	樽谷	和子	公益財団法人広島青少年文化センター 理事
//	中村	好宏	広島県環境県民局県民活動課長
//	藤本	恵	広島県中学校話し方連盟顧問
//	村山	友一	広島市教育委員会指導第二課主任指導主事

(五十音順, 敬称略)

2 審査の基準

概ね次の点を採点ポイントとし、内容、論旨、表現、態度等総合的に評価を行う。

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。
(柔軟な発想に基づく意見や提言、未来への希望や夢・メッセージ、新しい情報や視点など)
- ② 具体的な内容とともに、一般性・社会性の広がりがあるか。
- ③ 提案や提言を実現・実践する意欲や積極性が感じられるか。
- ④ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。
- ⑤ 発表に熱意が感じられ、迫力があるか。
- ⑥ 主張の内容が感銘と共感を与えているか。
- ⑦ 説得力のある話し方であるか。
- ⑧ 発表の早さや間のおき方、姿勢が適当であるか。

内閣総理大臣賞 受賞作品

あなたの声，心に届け

山梨県北杜市立甲陵中学校

3年 前 橋 真 子

「真子ちゃん、きょうだいいるの?」「妹と弟がいるよ。」「妹かぁ。羨ましい。」羨ましいなんで……。私は妹の存在を口に出すのをためらうことがあった。

私の妹は生まれつき音が聞こえない重度難聴だ。左耳に音を増幅させる補聴器、右耳に脳に音の信号を送る人工内耳を付けている。発音も上手ではない。私が小学生のとき「妹、障がい者なのに元気だね。」と友達に言われた。なんとも言い表せないモヤモヤが私の心に渦巻いた。障がいのある妹が明るく元気なのは普通のことではないと思い、恥ずかしさを覚えた。そしていつの間にか妹のことを口にするのも、一緒に出掛けるのも辛くなった。

この春中学校入学を控えた妹は、補聴器を新調した。私も一緒に店に行った。そこには色とりどりの補聴器が並んでいた。お店の方は、好きな色を選ぶよう言った。私は「真紀ちゃん、黒か茶色を選んだら?」と勧めた。強く勧めた。黒か茶色なら髪の毛と同調して、あまり目立たない。みんなと変わらない見た目でいられる。恥ずかしい思いをしなくてすむように、何度も言った。しかしそんな私を見て妹は言ったのだ。「誰になんと思われても、これは私の耳なの。私は黄色い補聴器の私を見てもらいたい。」妹に言われてハッとした。障がいにこだわっていたのは私自身だったのだ。

聴覚障がいのある妹が、明るく元気なのはおかしいのか。いや、妹は妹だ。妹が笑顔を絶やさないのは、今まで本当に沢山の努力をしてきたからだ。私と同じ小学校に行くために、人工内耳の手術を受け、手話が無くても友達と話せるように病院やろう学校に通って、発音練習を頑張っていた。誰にでも優しいのは、自分がされて嫌なことや辛かったことを痛いほどに知っているからだ。私は、今まで辛くて、悔しくて泣く妹を何度も見た。でもその度に努力してハンディキャップを乗り越えていた。そんな妹の努力を一番近くで見て知っているのは私だ。障がい者というフィルタを通さず、ありのままの妹を見て欲しい。手話や口話、筆談、テレビの字幕も全部、社会と繋がるコミュニケーションツールの一部だ。それが妹の全てではない。

聴覚障がい者は、一度見ただけでは耳が不自由かわからず、接し方に戸惑うことがある。でも耳の不自由な人がみんな、相手に手話を望んでいるわけではない。聴覚障がい者が困っているときは、その人の正面から「何か手伝えることはありますか。」と口を大きく開け、ゆっくり話しかけてほしい。

「思いやりのある言葉は、たとえ簡単な言葉でも、ずっとずっとこだまする。」これは貧困や病に苦しむ人の救済に生涯を捧げた、マザーテレサの言葉。心のバリアフリーの精神を表している。まずは聞こえないことについて知ろうとしてほしい。その思いやりでどれだけ救われる人がいることだろう。

妹は毎日黄色い補聴器をつけ、お気に入りのテニスラケットを持ち元気に登校している。先日友達に「妹さん明るくて、部活のムードメーカーで、頑張っているよ。」と言われた。ありのままの妹を見てくれていると分かり心が温かくなった。そんな妹は私の誇りだ。

私たちにできることには限りがあるかもしれない。それでもあなたの身近にハンディキャップを持つ人がいたなら、そのハンディというフィルタ越しではなく、その人自身や心に寄り添ってほしい。障がいのある人への理解が進むことで、一人またひとりと笑顔が増えていくと確信している。

妹の耳に、あなたの声は聞こえないかもしれない。でも、あなたの気持ちは妹の心に確実に、届いている。

「家庭の日」に関する作文・図画

特 選

おかえりのぎゅっ

東広島市立板城西小学校

1年 ^{にし}西 ^{わき}脇 ^い芽 ^{ぶき}吹

「おかえりなさい」とがっこうからげこうすると、おかあさんがわたしをだきしめてくれます。わたしはこのじかんがだいすきです。あさはやくおもたいランドセルをせおってがっこうにいて、べんきょうをしたり、たいいくでがっこうのグラウンドをはしりまわったり、あせをかきながら、がっこうのおはなにおみずをあげたりするととてもつかれます。つかれたころには、またあさよりも、おもたくなつたランドセルをせおって、あついなかちいきのおともだちとがっこうからいえまでげこうします。

わたしはまだいちねんせいでちいさいのでおもたいランドセルをせおうとフラフラしてしまいます。わたしがいえにちかづくときはおかあさんは、ベランダやげんかんのそとにたっていてわたしがいえにかえってくるのをみにきてくれます。おかあさんがみえるとわたしは、うれしくなってすこしはやあしになってしまいます。

「おかえりきょうもあつかったね。きょうもがんばったね。」とっておかあさんはあせでびしょびしょのわたしをだきしめてくれます。ほんとうはとてもつかれているのに、おかあさんにおかえりのぎゅっをされたときは、なぜつかれたきもちがなくなってころがあったかくなります。うれしくなって、わたしはいつもわらってしまいます。きょうも「ぎゅっ」とされてうれしいからです。

わたしがおおきくなくても、おかあさんにおかえりの「ぎゅっ」をされたいとおもいます。

おかあさんいつまでも、わたしをだきしめて「ぎゅっ」してね。

広島市立彩が丘小学校

6年 ^{あさ}浅 ^べ邊 ^{おと}乙 ^き稀

僕が思う「家族にとって一番大事な事」は「笑顔」だ。おこる声や、顔は、気持ちを重くさせる。悲しい事、つらい事も、無い方が良い。家族が笑顔で、楽しい会話をしていると、家の中は明るくて、また自然に笑顔が増える。

僕の家の中で、この明るい空気を一番に作ってくれるのは、いつもお父さんとお母さんだ。時にお父さんは休みの日はもちろん、平日は、仕事から帰ってつかれていても、ふざけた言葉を言っては、お母さんにおこられる。でも「おこる」と言っても、顔はおこってない。言葉のかけあいが、まん才のように聞こえる。僕は、お笑いが好きで、まん才やコントをよく観るけど、まさにそんな感じだ。いつも僕は笑いが止まらなくなる。

お盆に、車で移動している間に起こった事。となりから、ビュンビュン抜かしていく車がいた。「かわいい…」と僕は心配だったけど、前からお父さんの声が聞こえてきた。

「あれはサービスエリアのトイレに行きたいけえ、急いどるんじゃな。」って。

「じゃあしょうがないわ…」

とすかさず笑ったお母さんの声。僕は思わず、ふき出してしまった。

「そう考えたらそんな車にもイライラせんじゃろ？」

ってお父さんが僕に聞いてきた。トイレに行きたいからって、何台も何台もスピードあげて走っていくわけがない。だけどそういう風にじょうだんに変えてくれると、車の中の雰囲気も一気にあったかくなって、いやな気持ちがなくなる。

「お父さんのユーモアってすごいな」

って思った。あの声のかけ合いだけで、僕はずっと笑っていられたし、明るい気持ちになったから。

「お父さんの、この面白さはどこから生まれてくるのかな。」

そう考えた時、庄原にいるおじいちゃんとおばあちゃんが、思いうかんだ。おじいちゃんとおばあちゃんも、いつもこんな感じ。

「理由を作って、どうしてもタバコをやめないおじいちゃん」と「いろいろな手を使って、何とかタバコをやめさせようとするおばあちゃん。」僕達が庄原へ遊びに行くたびに、いつも二人は、この楽しい言い合いをしている。まるでボケとツッコミ。やっぱりまん才だ。

そんな、おじいちゃんおばあちゃんの中で育ったお父さんだから、おもしろいんだ。おもしろいお父さんのおかげで僕は毎日いつの間にか笑顔になっている。そんな僕の家はいつもオレンジ色。オレンジ色は元気で明るい色。僕は、毎日笑顔でいられるオレンジ色の家族が大好きです。僕はお父さんの子ども。笑顔にする役目がきつとあると思う。だから、もっと僕も、お笑いのセンスをみがいていかなくちゃ。みんなを笑顔にする事、それが僕の目標です。

福山市立新市中央中学校

3年 柏原優月

私の父は、元陸上選手です。高校、大学と陸上に打ちこみ、成績を残してきた父は、私の憧れで目標です。だから私は小学生のうちから決めていた陸上部に、中学生になって入部しました。

それから一年経ち、先生方の指導のお陰で県大会に出場できるようになりました。練習や大会の送迎はいつも父がしてくれます。練習帰りの車の中で、

「おつかれさま。頑張ったね。今日はめっちゃ足あがったじゃん！○○ちゃんぬかしてなかった？」

と父は、その日の私の走りについてコメントをくれます。練習がどうだったかなんて、私からは恥ずかしくて言い出せないけれど、父の一言で自分の成長を感じ、自信が持てます。だけど父は必ず、父親として誉めた後は陸上経験者としてアドバイスをします。その中には、自分で分かっていることもあります。私がまだ気づいていないこともあります。新しいことが知れることで視野が広がり頭の中の棚の引き出しが多くなります。父の「父親として」と「経験者として」の二面からのアメとムチは的確で、私は父のことをとても信頼していました。

しかし、県大会に出場して、私は父に疑問を持つようになりました。きっかけは、県大会へ出場する周りの子は大半が小学生の頃から陸上をしていると気付いたことでした。それに気づいた時、私はどうして父は私に陸上を習わせなかったのだろうと不思議に思ったのです。スポーツニュースでは親族が元スポーツ選手で、幼い頃からスポーツをしてきた人の記事をよく見ます。なのにどうして父は「やってみん？」の一言もなかったのか。父は私に興味がないんじゃないか。一人で考えれば考えるほど思いつめてしまって、父は私のことが好きではないんじゃないかと父を疑うようになりました。疑ってしまうけれどそうではないと思いたかった私は、大会の帰りの車の中で単刀直入に、

「どうしてお父さんは自分が選手だったのに私にやらせなかったん？」

と聞いてみました。どんな言葉が返ってくるのか怖かったし、私が今日聞いたことでもっと気まずくならないか、不安でした。返ってきたのは「本人がやりたいと思うことをやって欲しいけえ」でした。

「じゃけえ別に陸上じゃなくてもテニスとかバスケとか、優月がやりたいと思うものならいいんだよ。無理にやっても楽しくないじゃろ？父さんは陸上が好きだったけえ陸上やったけどな！」

父の言葉がゆっくりと、ジワジワと頭に入ってきました。言葉が落ちてくる度によかったと思うと同時に、父がそこまで考えてくれていたことに驚きました。私に興味がなく放っておかれていたと思っていたのに。父は、私の人生を見据え、私を一人の人として育ててくれているんだと感じました。

今、私は父の「やりたいことをやる」を大切にしています。やる気がなくなった時、なぜやっているのか思い出せば自然と良い方向へ進めます。

何でも「楽しい」と思えるようになったのは、たくさんの思い出を乗せた車の中での、一瞬の出来事からです。

「いらっしゃいませ。やきそばは、いかがですか。」

と、ぼくのおとうさんはげんきいっぱいにいました。これは、ぼくのおうちでおまつりごっこをしてあそんだときのおもいでです。おとうさんが、おみせのひとになりきっていたのがとてもおもしろくて、かぞくみんなでおおわらいました。

ぼくのおうちは、おとうさん、おかあさん、いもうとがふたり、そしてぼくの5にんかぞくです。おとうさんとおかあさんは、おしごとをしています。おしごとがおやすみのひがちがうので、5にんがそろそろやすみのひはなかなかありません。ほんとうのことをいうと、もうすこしみんながそろそろやすみがあつたらいいなとおもうこともあります。でも、おとうさんもおかあさんもおしごとがおやすみのひにはぼくたちとたくさんあそんでくれるので、うれしいです。

5にんがそろったときのおやすみのなかで、ぼくがいちばんたのしかったおもいでが、おまつりごっこです。コロナウイルスがはやりはじめたころに、

「おうちでおまつりごっこを試みよう。」

とおかあさんがいました。ぼくは、おうちでおまつりができるのかなとおもいましたが、わくわくしました。

どんなゲームがしたいか、どんなやたいがあつたらいいかを、かぞくみんなではなしあいました。ときどききょうだいげんかもしましたが、じゅんびをみんなでがんばったのもたのしいおもいでになりました。ゲームやかんばんができあがると、ほんばんがまちどおしかったです。「きょう、おまつりごっこしたいよ。」

と、いもうとたちもまいにちのようにいって、とてもたのしみにしていました。

おまつりごっこのひ、おかあさんはゲームのてんいんさんになってくれました。そして、ぼくたちにはないしよで、ぼくたちきょうだいがいすきなせいさくコーナーをよういしてくれていました。やさいスタンプでうちわづくりをして、たのしかったです。やたいのひとになりきってるおとうさんがおもしろくて、なんかいもやたいにいきました。おとうさんとおかあさんを見て、つぎはぼくもてんいんさんになってみたいなとおもいました。

つぎにおやすみがあうときは、あきです。みんなでおべんとうをつくって、ピクニックにいったり、やまのぼりをしてみたいです。つくってあそぶこともすきなので、ダンボールをつかっておおきなおしろをかぞくみんなで作ってみたいなともおもいます。いろいろかんがえると、わくわくします。そして、これからたくさんのおもいでをつくっていきたいです。はやく、かぞくみんなのおやすみがあうといいな。

三原市立糸崎小学校

3年 あ ぼ よつ ぼ
安 保 善 絆

5月7日ゴールデンウィーク中に、ぼくはお父さんと久井のしんせきのおうちに田植えのお手伝いに行きました。

田植えのきかいに苗を入れかえたりする作業をやっている時に、何か緑色の小さい物が水路に流れてきました。

これがぼくとかめこの出会いでした。

お父さんが流れてきた小さい物をつかまえてぼくに見せてくれた物は、かめでした。ぼくはその小さいかめを見てぜったいつれて帰りたいと思ってお父さんにおねがいしました。お父さんは「ちゃんとめんどろ見れるん？ かめは生き物じゃけえ水もかえんといけんし、水そうのそうじもせんといけんし、エサも食べさせんといけんけどできるんか？」

って言われて、ぼくはかんがえる時間もないくらいすぐに、「だいじょうぶ!!! ちゃんとできる!!!」

と言いました。

ぼくのおうちに新しい家族がふえました。

田植えがおわり、おうちに連れて帰ると、お姉ちゃんもお兄ちゃんもお母さんも、みんなビックリした顔をしてかめを見ました。すぐにお母さんは、名前をつけてあげんといけんねと言いました。

ぼくはかめこと名前をつけました。

前に学校の図書室でみたかめのすかんに、シッポが長いとメスとかいてあったからです。かめこのしっぽは長いから女の子だとすぐわかりました。

家に使ってなかった水そうがあったので、お父さんと水そうをあらってじゅんびしてかめこを入れてあげたら、うれしそうでした。エサもかいに行って、あげたら、よろこんで食べるのを見て、ぼくもうれしくなりました。

毎日毎日、ぼくは朝と夜とエサをあげ、水がよごれたら、お父さんと水そうをキレイにしました。

夏になり、水そうの水のよごれもすぐきたなくなり、よく外の水道で、水かえのそうじをするようになりました。

その日もそうじをしていたら、かめこがきもちよさそうに、外を歩いていたので、水そうがキレイになるまでおさんぽさせていました。

水そうがキレイになった時、かめこの方を見ると、さっきまでげんかんの前にいたかめこがいなくなっていました。

お父さんとぼくは1時間以上さがしました。ぼくは泣くのをがまんしていたら、お母さんが泣きました。かめこは春にきて夏までしかいなかったけど、ちゃんとぼくの家族でした。ぼくだけじゃなく、みんなだいじにしていた家族でした。ぼくはかめこがまた帰ってくると思います。水そうもキレイにしたし、エサもあるから、またいつでも帰ってきてね。まってるぞっかめこ!!!

広島市立大河小学校

4年 ^{あま}天 ^の野 ^ま舞 ^や弥

「今日はトンカチを食べたよ。」

これは、お茶目でおちょこちょいで頑張り屋。それから、とっても優しく、ただ私たちのために叱ってくれるみんな愛されている私の大好きな大好きな祖母の話です。

「えっ!! なんて!! 大丈夫なん?」

「やわらかいから大丈夫よ。ばあちゃんは美味しいから食べすぎたわ。」

「はあ~?! 歯がボロボロになるじゃん。」

「ばあちゃんは年だから、舞弥よりは歯はボロボロよ。」

私はお腹を抱えて大笑い、周りのみんなも大笑いの渦です。

「りよばあちゃん。トンカツでしょ? 間違えてるよ。」

と笑いながら伝えました。祖母は恥ずかしそうに一緒に笑い、

「間違えたね。そうそう、トンカチじゃなくて、トンケチだったよ。トンケチ食べたんよ。」

またまた、大爆笑です。母や兄なんて笑い過ぎて泣いています。いつも祖母はこんな調子でたいてい、何かどこか言い間違えています。だから、祖母の周りは笑いと幸せに包まれます。

祖母は糖尿病です。今は薬で血糖値などコントロールしています。緊急入院や眼科手術は2回しています。そんな祖母と母が「死への生き方や死後」について話をしたそうです。それは、「延命治療はしないこと。死後は医学の発展のために解剖にまわして欲しいこと」その事を母から聞きました。聞いた時は、「何で?」と悲しくて寂しくて複雑な気持ちになりました。思わず、「頑張って治療したらいいじゃん。そしたら、生きられるかもしれないじゃん。」

と母を責め立てるように言いました。それに、

「まだ、大好きな祖母は生きてるのに、何でそんな悲しい話をしなくちゃいけないの。」

とも思いました。だけど、母は落ち着いて

「大好きなりよばあちゃんだからこそ、今、舞弥に話しているよ。」

と私の手を握りながら優しく言いました。

「りよばあちゃんは、頑張り屋でしょ。それに、家族のためにたくさん我慢もしてきた人。だから、りよばあちゃんが決めたことを尊重してあげたいし、しなくちゃいけない…。」

私はその言葉を聞いて、何も言えなくなってしまいました。なぜなら、母も祖母のことを大切におもっているのを知っているからです。そして、母も心と闘っていることを…。

この願いは私や母だけでなく、祖母を愛している人みんなが願うことです。それは、祖母の長生きです。それは、祖母にとっての幸せです。私はまだまだ祖母の言い間違いを聞きたいです。それから、マッサージもしてあげたいです。こうして祖母となにげない日常を楽しみたいです。「りよばあちゃん。これはトンカチです。いや恋文です。」

竹原市立竹原西小学校

5年 住吉 晟 亜

ぼくの家族は5人です。お父さんとお母さん、そして中学生の兄が2人います。兄は双子で、友達は2人がそっくりでどっちがどっちか分からないと言いますが、ぼくにはわかります。なぜなら、ずっと一緒にいるので2人の違いがよくわかるからです。小さいころ、ぼくたち兄弟は、よく三つ子に間違われていたようです。それは3人が同じくらいの大きさに見えたからです。お母さんが言うには、兄たちは小さく生まれて細いからで、ぼくが少し大きかったからだそうです。

この夏、ぼくにとって大きな出来事が起こりました。夏休みに入って最初のサッカーの試合で、右手首をこっ折してしまったのです。サッカーやプールができなくなり、悲しい夏休みが始まってしまいました。利き手が使えなくなったことで、利き手ではない左手で、まだまだ残っている宿題をやろうと決めました。この作文もその一つです。字はきたなくなるけど、できるかぎり一生けん命書こうと思いました。そうは言っても利き手が使えないのは本当に不便です。ご飯を食べるのも、字を書くのも、着がえるのも、お風呂もトイレも何もかもいつもより時間がかかります。今までスムーズにできていたことができなくなってしまいました。

ぼくの兄たちもいろいろなことができるようになるのに時間がかかります。また、話をするのが上手ではありません。いろいろなことに時間がかかったり、うまくできないので、できるかぎりぼくが手伝っています。スムーズにできるように指示を出したり、一緒に勉強したりすることもあります。お母さんが、

「2人が大きくなるのは時間がかかっているから、いろいろ助けてあげてね。」

と、時々ぼくに言います。だけど、ぼくがこっ折して右手が使えなくなったことで、今度は兄たちがぼくの手のかわりになって助けてくれるようになりました。布団をたたんでくれたり、食器を運んでくれたり、ぼくがやっていた牛乳パックを切ったり、ゴミ捨てに行ったりするお手伝いをぼくの代わりにやってくれます。兄たちはふざけることが多くてよく怒られているけど、時々思いやりを見せてくれるやさしい兄たちです。こっ折したことで、外に出て遊んだりサッカーしたり、夏休みの間に苦手な教科をこく服しようと計画していた勉強もすることができなくなって、ほとんど家で過ごす夏休みになってしまいました。にぎやかな兄たちが家にいてくれるので、ぼくはたいくつせずに夏休みを過ごすことができました。こっ折が治るまでもう少し時間がかかりますが、治るまで兄たち、よろしくおねがいします。そして治った後、困っている人がいたら、ぼくがまわりに助けてもらったように、手助けをしてあげたいと思います。

広島市立口田東小学校

6年 とう じょう ゆう き
東 城 優 姫

私の父は、大工さんをしています。父は、とても優しく、色々な人に自慢できるすごい人です。ですが、少しさみしくなることもあります。それは、夏休みや冬休みです。

大工さんは、とてもいそがしくて、大変な仕事です。朝早い時間に家を出ないといけなし、夜も、残業でおそくなったりします。なので、夏休みや冬休みは、父にしっかり休んでもらいたいし、あまりお出かけをしません。

学校では、お友達が、

「夏休み〇〇に行くんだ～」 「冬休み、〇〇に行ったよ！」

とお話しているのをよく聞きます。それを聞くと、なんだかさみしくなります。

でも、私の夏休みや冬休みは、すごくキラキラした思い出になります。お出かけをしなくても、母が私の大好きなホットケーキを焼いてくれたり、家族5人でゲームをしたり、父も、近くの私と姉が好きなお店に連れて行ってくれます。私は、それがすごく楽しくてうれしいです。母や父は、

「どこにも連れて行ってあげれなくてごめんね。」

といつも私達に言いますが、私は、その、

[どこにも行かない夏休みや冬休み]

が特別な、キラキラしたものになります。

父が大工さんだと、夏休みや冬休みはどこにも行く事ができず、少しさみしさを感じる事もあるけど、私は、父をほこりに思っています。こんな良いお父さんはいない！と思っています。私は、家族が本当に大好きです。父がお仕事でつかれた時には、いつでも力になりたいと思っています！

廿日市市立廿日市中学校

1年 竹 迫 楓

私の家では、いつも決まっている事がある。それは、家族みんなで川の字で寝ることだ。布団を並べて、部屋一面が布団になる。それはまるで、大きなマットのような状態だ。

川の字で寝ることは、私が生まれる前に、父と母が布団を並べて寝ていた。私が生まれた時には、父と母の間に寝ていたみたいだ。それから2年後に弟が生まれた。弟が生まれると、母の隣には、私と弟が寝ていた。父が、端になるのは、いろんな理由があるのだろう。

私も13歳になった。寝る位置は、以前と少し変わった。私が端で、弟、母、父の順番だ。それは、少し照れも出てきたからだろう。

ただ、家族で一緒に寝ることは嫌ではない。きっと、私にとって当たり前の日常だからだと思う。

寝る時間は、一緒ということは最近が少ない。まず、初めに弟が力尽きることが多い。弟は、ふと隣を見ると寝ている。時々、母が寝てしまっている事もある。そんな時は、今日は何か仕事が忙しかったのかなと感じている。一番最後に寝ているのは、きっと父だ。父は、仕事から帰っても家で仕事をしていることが多い。

なかなか一緒に寝ることはないが、朝は、家族がそろっている。朝起きて、家族を見ることはうれしい。ただ、我が家でおもしろいことは、起きた位置は、寝ていた時と違うことが多い。川の字で、寝てたはずだが、寝相でその形はくずされている。

部屋一面の布団は、大きなマットである。弟は寝ている時によく転がっている。私も、動いている時がある。ただ、その動きは、自然で自由な家族だと思う。

我が家の川の字は、年々形は変わっているが、その川の字は、どれも私にとっては、幸せの形だ。夜、横一列に寝ている時も、朝、寝相がすごくて起きた時も、私にとっては、幸せな形なのである。

これから、私も成長し、弟も成長する。今までのような形の寝方は変化するかもしれない。それは、少しさびしい気もするが、私達が心の中も大人へステップするために必要かもしれない。今はただ、その時を感じつつも、残りわずかな川の字で過ごす時間を私は大切にしていきたい。

将来、私が家庭を築く時に、我が家のたくさんの思い出と経験した時を思い出さだろう。その時に、幸せを感じた事を同じように実践し、良い思い出は、受け継いでいきたい。

父と母が、私と弟へしてくれた事。川の字で寝ていた日々。家庭の中の平安な時は私には、当たり前の日常だが、毎日、家族と過ごせるのは当たり前ではない事を改めて、気付くことができた。

これからも、私は家族で過ごすことに感謝をし、一日一日を大切にしていきたい。

廿日市市立四季が丘中学校

1年 ちくちあき
知久千瑛

家族とは、何だろうか。お母さんがいること。お父さんがいること。血が繋がっているということ。それとも、一緒に住んでいるということだろうか。広辞苑で調べてみると、「夫婦の配偶関係や親子・兄弟などの血縁関係によって結ばれた親族関係を基礎にして成立する小集団」とある。ならば、血が繋がっていることが「家族」なのだろうか。血が繋がっていなければ「家族」ではないのだろうか。どうだろう。私はそうは思わない。

私の両親は離婚している。そのため、私は物心ついたときから母方の祖父母の家で暮らしてきた。そのことに対して不快に思ったことはないし、ここでの生活こそが私にとっての「普通の日々」と感じていた。

小学3・4年生のときのことである。玄関で靴を履きかえ、友達と一緒に下校しようと思っていたとき、ふとしたことで自分たちのお父さん、お母さんの話になった。

「私のお父さんはバレーボールやってたから、背が高いんだよ。」

友達のお父さんの自慢話に相槌を打ちながら、私は友達のお父さんやお母さんに興味津々だった。そのときだった。

「ちあきちゃんのお父さんはどんな人？」

と友達が聞いてきたのだ。私は自分のお父さんの話をするのが嫌だったわけではないが、かといってみなに話したことはなかった。私は特に何も気にせず、

「私のお父さんとお母さんは離婚してるんだよ。」

と言った。するとその話を聞いていた男の子がこんなことを言ってきたのだ。

「そんなこと、よく堂々と言えるね。」

私は男の子が言ってきたことの意味が分からなかった。どうして私を責めるの？ 私何か悪いこと言った？ ただ質問に答えようとしただけなのに。お父さんとお母さんが離婚しているからって、何がいけないの？ そのとき私は男の子の言葉にただただ戸惑って、男の子に何も言い返すことができなかった。

あのときのことは、今でも時々思い出す。思い出す度に、少し胸が苦しくなる。でもそのおかげで、家族について考え、少しだけ分かったことがある。たとえ家族の形が他の人と違って、誰かに何か言われても、私にとっての「家族の形」はいつまでも変わらないということだ。おじいちゃん、おばあちゃん、お母さんと兄弟3人の6人での暮らし。それが私にとっての「家族の形」だ。

「家族」とは何か。この問いの答えは、人によって様々だ。でも私にとっての「家族」は、いつでも、どんなときでも、励まし合って、支え合える存在だ。それはたとえ血が繋がっていてもいなくても変わらない。家族の形が違ってても堂々と前を向いて、家族と過ごす毎日を大切に生きていきたいと思う。

三原市立宮浦中学校

なか しま ここ あ
1年 中 島 心 杏

あなたは「死」についてどう思いますか。これまでの私は死の重みをあまり分かっていませんでした。

中学校に入学して間もないとき、大好きだった祖母が亡くなりました。そのことを母に言われたとき、祖母は大阪にいて遠かったからか、実感がわかず涙が出ませんでした。お通夜のため、大阪へ向かうとそこにはただねているだけのような祖母がいました。本当にねているようでした。でも、何回声をかけても祖母は起きませんでした。おそろおそろ祖母の手に触れると冷たかったです。昔あんなにあたかかった祖母の手が。本当に亡くなったんだとこのとき実感し、寂しさがこみあげ涙が止まりませんでした。

周りがお通夜のため、あわただしくなる中、祖母を棺桶に入れる前、化粧をさせてもらいました。周りの人がみんな「かわいい」と祖母に声をかけていました。そのとき祖母が笑ったように見えました。お通夜がおわり、ねむる祖母に「おやすみ」と言ってその日は帰りました。お通夜に参加した人数はすごく多くて、改めて祖母が愛されていたことを知りました。次の日、葬儀も終わり火そうされるため車に乗せられました。棺桶のふたを閉める前にみんな泣きながら声をかけていました。祖母のまわりにはたくさんの花がありました。時間が近づき、ふたをすると悲しさがこみあげてきました。

祖母は病気でした。祖母が医師に余命をつけられたとき、家族や私の母に「孫には言わないで」

と言ったそうです。このことを私は後から知りました。きっと私と妹の悲しむ姿を見たくなかったんだと思います。祖母の優しさを改めて知り、涙が止まりませんでした。

この出来事を通して私は死の重さ、命の大切さについて学びました。そこで一つ一つの行動や言葉が大切だと分かりました。「もっと話せば、会いにいけば、手をつなげば、感謝を伝えればよかった」と後悔しています。祖母に伝えたいことはまだまだたくさんあります。でも祖母は私を見守っていると信じています。

祖母は私に貴重な体験をさせてくれました。人が死ぬということ、命の大切さのことなどを教えてくれました。このことを忘れず生きたいと思いました。ニュースでも命にかかわる事故や事件の報道が流れます。その人の周りにはたくさんの悲しむ人がいます。それをふまえてもう一度「死や命」について考えたい、考えてもらいたいと思いました。また、限りある命を大切に使ってほしいと思いました。日々感謝を忘れずに生きたいです。最後に祖母に伝えたいことがあります。

「ありがとう、おばあちゃん。」

尾道市立美木中学校

1年 ^{はた} ^{なか} 中 ^{しょう} 翔

僕の祖父は、昨年12月に病気で亡くなりました。祖父が亡くなり会えなくなって、とても寂しく悲しいです。もっと長生きしてほしいです。でも、祖父との思い出は沢山あります。

僕が幼い頃は、毎日会いに来てくれました。散歩や公園に行き、よく遊んでもらいました。僕の気がすむまでいつも付き合ってくれる、優しい祖父でした。祖父から誕生日プレゼントで、初めてレゴブロックを買ってもらった時から、今でもずっとレゴが大好きです。

年に一度は、旅行に行きました。水木しげるロードで、妖怪のブロンズ像を探しながら歩き、一緒に写真を撮って回ったのが楽しかったです。

僕が学校に行くのが難しくなった時も、
「ゆっくりでいいから、頑張っていくよ。」
と笑顔で励ましてくれました。

祖父は僕の事をとても心配し、母によく話していたそうです。中学生になってからの事、将来の事を、まだまだこれから先も見続けたいと話していたそうです。成長を楽しみにしていたと、母が教えてくれました。僕達は、大事にされていたのが、よく分かりました。

祖父は入退院を繰り返しました。入院してからは、コロナの影響で面会する事が一度もできませんでした。手紙を書いたり、写真を渡してもらおう事しかできませんでした。会えないので心配でした。亡くなる前日に、病院で祖父とミートをさせてもらいました。もう話せる状態ではなくて、祖父はとても息苦しそうで、見ているのが辛かったです。ショックでした。でも、「今までありがとう。また花見に一緒に行こうね。ご飯を食べに行こう。」
と言うと、僕達の声が祖父に届いたようでした。

祖父が入院や通院している時は、母が付き添いをしていたので、妹と留守番をする事が多くありました。僕はお米を炊いたり、妹のご飯を作り、皿洗いをして、母の手伝いをしました。母は喜んでくれました。母が大変そうだったので、何かできる事があればしてあげたいという気持ちになりました。

もしも祖父が今も健在だったら、中学生になり、頑張っている姿を見てほしかったです。まだまだ一緒にいられると思っていた。祖父がいなくなって改めて、祖父の存在が大きかった事に気付きました。

これから僕も、家族と過ごす時間を大切にしていきたいと思います。祖父のように優しい、思いやりのある人になりたいです。

広島市立江波中学校

1年 藤井美琴

私の母は私が6歳の時に乳がんで入院していたことがありました。当時は幼く、がんのことなど少しも知らなかった私は、いつ帰ってこれるのかな、などと乳がんを甘く見ていました。けれど、母から、「たくさん検査を受けたら、1～5あるレベルの内の3で、手術を受けたり、色々薬を飲んだりしないといけないから、しばらく帰れないかも。」とききました。そのとき、がんの怖さを思い知って、母の体が心配になり、驚きと不安で胸がいっぱいになりました。

そして、それは兄も父も同じだったようで、母ががんになったと知った途端に、驚いたような顔をして、それと同時に、現状や具合をきいていました。そして、私達子供は、幼くお手伝いがまだできなかったため、父は一人で慣れない家事をやらねばならないという使命感も重くのしかかっていたようでした。私の記憶でも父はいつも忙しく疲れたような顔をしていたイメージがあります。

けれど、私達家族はある『応援』があったおかげで、この危機を乗り越える事ができました。そして、その『応援』とは、

『母の笑顔』

でした。

母は、私達が毎日お見舞いに行く度に、明るく元気な笑顔で迎えてくれました。そして、その日病院であったことや、お気に入りの本の話など、たくさんの面白い話をしてくれました。また、私が学校などの話をする度に、優しく反応をしてくれるので、元気そうだと安心することができました。おまけに、私が一番心配していた手術が近づいた時でも、怖さや悲しさを感じさせないいつも通りの笑顔だったので、大丈夫なんだ、と安心し、平静を保つことができました。

そうして、手術も無事成功し、抗がん剤の副作用も終わり、完治することができました。

これらの事を今思い返すと、なつかしいなと思う反面、本当にあの頃は身近な人の命が危ないという状況が初めてで、寝られなくなる程怖かったので、『母の笑顔』が無ければ、さらに悪化していたと考えると、やはり元気付けてくれる母はすごいなと思いました。

そして、この作文を書くために、母に話をきくと、母も初めての体験でとても怖く、家や仕事の事で悩むことも多かった、とききました。その瞬間、母は明るいイメージが大きかったので、とても驚きました。けれど、私のイメージからして、不安に思いながらも少なくとも子供達には、元気に見せていたので、母として、人間として、さすがだなと思いました。だから、私も母のように、いつでも元気で、誰かの励ましになれるような人になりたいです。

庄原市立庄原中学校

1年 松本乙華

私には、弟がいます。私が4年生の時に産まれたので年齢が10才違います。

弟が産まれた頃の事をよく覚えています。

私が3年生の時、お母さんが、急に

「この写真、見て」

とうれしそうに言ってきて写真を見せてくれました。そこには、豆粒のような物が映っていて、赤ちゃんが産まれる事を知りました。

その豆粒のような物が、赤ちゃんになるおどろきと産まれてくる事への喜びの二つの気持ちが入り混じっていました。

私は、今も弟の出産予定日を覚えています。弟は、その日より早く産まれました。6月10日に学校から帰ると誰も居なくて、友達のお母さんに家の人を病院に居る事を教えてもらいました。朝、お母さんが、「今日、産まれるかも」

と言っていたのでピンとききました。

友達の家で待っていたら、おばあちゃんがうれしそうに、産まれた事を言って、むかえに来ました。

私は、心を弾ませ、妹と一緒に病院へ向かいました。弟を最初見た時、待ちこがれていただけに感動しました。弟の顔は、私の手で隠れるくらい小さくて、とても可愛いと思いました。お母さんも、笑顔でしたが、疲れた様子だったので、出産は大変なんだなと思いました。いつまでも病室に居たい気分でした。

弟が、家に帰ってくる日を、指折り数えて待っていました。弟が帰ってからは、弟の事をみんなで考えながら生活する事が多くなりました。弟の顔を見ていたら、表情が目まぐるしく変わるのでおもしろかったです。

弟の世話は、家族の誰かがやりたがり、私は妹と競い合って、お風呂につけたり、ミルクをあげたりしていました。

親せきや家族の友達が、たくさん、お祝いに来てくれたので、みんな喜んでくれているなあと私までうれしくなりました。私の友達も、家に遊びに来ると、弟の名前を呼びながらあやしてくれたり、抱っこしてくれ、可愛がってくれました。

弟を囲んでいると、みんなが笑顔になっていたし、あったかい気持ちになるので、弟の力はすごいなあとと思いました。

弟が産まれてから、弟を喜ばせるため何をすればいいかを、家族みんなで考える事が増えました。普段は家族それぞれ考える事が色々あるけれど、弟の事となるとみんなの思いが一つになる気がします。

一番印象に残っているのは、弟の1才の時の手作り誕生日会です。私も妹も、1才の誕生日祝いをホテルでもらいましたが、弟の時は、コロナが流行していたので、必然的に家でする事になりました。

そのため、自分達で誕生日会の流れを考え、それをプログラムにして会を進めました。私も妹も、張り切って司会をしました。かべの飾り付けや弟が喜びそうなごちそうも家族一人ひとりが力を出し合って協力しました。

弟が、その誕生日会を喜んでくれたのは、言うまでもありませんが、家族誰もが終始、笑って、はしゃいで楽しかった事を今も、はっきりと記憶しています。

これも、弟の力だと思います。

同じ兄弟でも、妹とはよくけんかをしてしまいます。妹とは、年が近いという事もありますが、弟には、なぜか許せてけんかになりません。弟は今、3才で、動きもしっかりしてきて、話もよくするようになってきました。弟と触れ合うと笑う事が多いです。家族のふん囲気をなごませてくれています。

時には、私と妹がけんかをしている時、止めてくれたりもします。

やっぱり、弟の存在はすごいと感じています。これからも、弟と共に家族が一つになっていけばと思います。

廿日市市立廿日市中学校

2年 ^{おお}大 ^{さわ}澤 ^{かおる}薫

7月22日は私の誕生日でした。そのため、その日の夜は誕生日パーティーをしました。このように我が家ではイベント事を大事にしています。小さい頃から七夕やクリスマス、お正月などイベントがある度にお祝いやパーティーをやってきました。特に誕生日パーティーはかかさずやっています。そして家族みんなでしたパーティーは全部鮮明に覚えています。私の中で一つ一つがとても大切な思い出となっていくのです。

私のお母さんがふと、なぜイベント事を大事にしているのか言っていたことがありました。イベント事や行事をしていくことによって私やお兄ちゃんに1年の流れを知ってほしかったそうです。他にも、お母さんが子供の頃、おばあちゃんやおじいちゃんが家のことやお仕事で忙しく、パーティーなどをやってもらっていなかったそうです。そのため、自分に子どもができたときにはそういうことを大切にしていきたいと思っていたようでした。そして、特に誕生日を大切にしているのは私とお兄ちゃん、子供たちの成長を感じることができるから、でした。私はそれを聞いて色々な思いがこめてあることに驚いたのと同時に嬉しくなりました。私達のことを一番に考えてくれていることに改めてお母さんとお父さんの愛情を感じ、じーんとした気持ちになったのを覚えています。

家族でしたパーティーには色々な思い出があります。クリスマスにはお兄ちゃんと一緒にケーキを作ったり、クリスマスらしい絵を描いてはったりしました。七夕では折り紙と割りばしでたんざくを作り、それにみんなでお願いごとを書いてはりました。ボロボロになっていたけどお母さんがとってくれていて嬉しかったです。そして誕生日には誕生日の人にむけて質問を紙に書き、箱に入れてクジのように引いていき、聞くという、質問コーナーのようなこともしていました。私は質問を書くのも受けるのも楽しくてワクワクして私にとって家族や自分の誕生日はとても特別な日でした。

ところが今年のお兄ちゃんの誕生日は異変が起こりました。高校生になってだんだんと忙しくなってきたお兄ちゃんは部活の予定などで誕生日パーティーがどんどん延期になっていったのです。そしてむかえたパーティーをする予定だった日もお兄ちゃんが友達の家にお泊まりする約束をしていて、去年のように行うことができませんでした。私はそれがさみしくて、さみしいね、とお母さんとお父さんに言いました。すると二人は「それも成長した証拠だよ。」

と笑いながら、そう言っていました。それを聞いて私ももっと大きくなったら、成長するからそれに伴って特別な日もなくなっていくと思うとさみしいような嬉しいような気持ちになりました。

東広島市立松賀中学校

2年 木 谷 優 月

私の夢は陸上の全国大会に出場することだった。幼いころからもっていた夢が今年、叶ったのだ。いつも練習を見てくださった先生方やコーチの方々にも感謝の気持ちでいっぱいだが、1番は常に支えてくれていた家族に感謝している。

私が全国大会を決めるまでたくさん辛いことがあった。正直、自分の中では全国大会なんて無理なのではないかと思っていた。でも家族は私のことを信じてサポートし続けてくれた。足のケガが続いて全く練習ができないときは病院につれて行ってくれたり、少しでも早く治るように毎日、必ずマッサージをしてくれた。中々、思うような記録が出なくて悩んでいたときは「大丈夫だよ。このことを一つの経験として次に活かしていけばいいからね。」

と優しく声をかけてくれた。新型コロナウイルスが感染拡大していく中でももしかしたら県大会に出場できないかもしれないというときだってあった。県大会で全国大会の標準記録をきらなければ全国大会に出場する権利を得ることができないのだ。そんなときは「絶対出れるよ。落ち込まずに頑張ろう。」

とはげましてくれた。このような家族からのサポートや声かけがあったからこそ辛いことも乗り越えて頑張ることができた。

全国大会出場のコツを得ることができる県大会当日、家族は朝早くに起きてご飯をつくってくれたり、送迎をしてくれた。姉と妹は県大会前日に夜遅くまで起きて手紙を書いてくれた。「目指せ優勝。目指せ全中。ぜったいいける。5m45cmとんでこい。」と書いてあった。私はこの手紙にすごく背中を押された。常に持ち歩いて大切なお守りにしている。

ずっと前からどんなことがあっても私を信じて支え続けてきてくれた家族。私が全国大会を決めたときにはすごく喜んでくれた。

「すごいじゃん！よく頑張ったね。」

と声をかけてくれた。私は頑張ってよかったと達成感に満ちあふれていた。

このことを通して家族の存在の大きさに改めて気づいた。全国大会に出場するということは家族がいなかったら絶対に叶えることのできないことだ。たくさんわがままを言って迷惑をかけたこともあるし、困らせてしまったこともある。でも、そんな私を一番近くで支えてくれた家族には本当に感謝しかない。

全国大会まで残り数週間。家族は

「全力でサポートするからね。」

と言ってくれている。その期待に応えられるように頑張りたい。そして、今までサポートしてくれた分まで恩返しできるように自分が今できることを精一杯やって全国大会に挑みたい。

広島市立可部中学校

2年 ^{しら}白 ^{もと}本 ^{はる}春 ^の乃

私の母と弟は、春休みに新型コロナウイルスにかかってしまいました。これは、その時のできごとです。春休み直前の、学校が休みの日、母に高い熱がありました。そこで翌日、家族全員でPCR検査を受けに行き、母が陽性、私、弟、父は陰性でした。

母は私の部屋に隔離され、自宅待機となりました。幸い、母は熱が出た翌日には元気になったので、少し安心できました。ところが、まだ問題がありました。洗濯はいつも、私も弟も手伝っているから分かるけど、料理は、いつも母がやってくれていたのが大変でした。

最初の方は、父にまかせていました。でも、いつも料理をしない父なので、やっぱり、いつもと同じ味にはなりません。私は、カレーを作ったり、なべをつくったりしましたが、全て、母にラインで作り方を教えてもらいました。でも、なべはぐちゃぐちゃになったし、時間はかかるので、とても大変でした。私も父も、母と同じようにはできません。これを、毎日毎日つくってくれているありがたみが分かりました。

また、もう一つ困ったのが、食器を片付ける場所です。私は、コップと、お皿と、はしなどの、いつも使うものしか知りませんでした。タッパーや、ボウルをおさめる場所をおぼえてないので、私も父も困っていると、弟が全部知っていました。おかげで、ちゃんと全部もとの場所にもどすことができました。

それが数日続くと、弟が体調不良になりました。もう一度PCR検査を受けると、弟が陽性でした。弟も隔離されましたが、母と同じく、2日目からはとても元気で、春休み前に買っていた学習ドリルを母にやらせていました。そして、弟のコロナウイルス発症で、春休みギリギリまで自宅待機になり、これ以上コロナにかからないようにしよう、とみんなで気をつけました。

その後、母が隔離期間を終えると、久々に母がごはんを作ってくれました。私と弟が大好きなハンバーグでした。時間がかかるし、大変なはずなのに、めんどくさい、とか言わず、私たちのために作ってくれて、とても嬉しかったです。

その後は、弟も無事に隔離期間を終え、私も父もコロナウイルスにかかることなく、春休みギリギリで自宅待機を終えました。

今回のできごとで、家族のみんなへの感謝がふえました。

いつも、当たり前のように私たちのごはんを作ってくれる母。最近は気温も上がり、火を使うととても暑いですが、それでも、おいしいごはんを作ってくれます。

私にできない手伝いをしてきている弟。今はだしまき卵も作れるようになったり、手伝いをしっかりやってくれたり、みんなの役に立つことができるようになりました。

そしてなれない家事をがんばってくれた父。うまくいかないこともありましたが、自宅待機中の家事は、ほとんど父がやってくれました。今は普段通り仕事をがんばってくれていますが、何かあった時、たよれることが分かりました。

でも、みんなにまかせてばかりではいけないので、私も、もっと家族の役に立てるようにがんばっていききたいです。

また、母が家事をできないようなことがあったら、今度は、率先して、私が代わりにできるようになりたいです。そのために、洗濯も、もっと速く丁寧にできるようにしたいし、一番困ったのは料理だから、作れるものを増やして、家族の役に立ちたいです。

いつも、私たちのために、働いたり、家事をしてくれたりする両親のすごさが、今回、少しだけですが、分かった気がします。

私も、そんな家族へ恩返しができるよう、日々がんばっていききたいです。

三原市立宮浦中学校

2年 ^{すな}砂 ^だ田 あかね

私の家族には一つ大きなルールがあります。私たち家族をつないでくれる大切なルールです。そのルールとは「家族全員そろって夕食を食べる」というものです。

私の両親は共働きで朝食、昼食は家族全員がそろうことはありません。朝食は父か母のどちらかと、昼食はそれぞれ職場や学校で食べます。しかし、夕食はどんなときも一緒に食べます。必ずみんなで話をしながら食べます。学校での出来事、習い事での出来事、職場での出来事、様々な話をします。嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、悔しかったこと、その全てを家族全員と共有するのです。ときには家族で討論会のようにディスカッションすることもあります。白熱すると、それぞれの意見がぶつかることもあります。それぞれがそれぞれの意見を持っていて、それが一番正しいと考えるがゆえの衝突です。でも、そのおかげでたくさんの視点から物事を捉えたり、考えたりできるようになりました。

一度だけ、こんな風に家族で夕食を食べるのをうっとうしいと思ったことがありました。なぜなら私の言動についての的確に指摘をされたからです。親だからこそ包み隠さず指摘できるのに、その指摘に腹が立ち、つい怒ってしまいました。すぐに自分のためを思って真剣に考えての指摘だと気付きましたが、素直になれず謝ることができませんでした。次の日の朝になっても謝ることができず、夕食の時間になりました。謝るならこのタイミングしかないと思い、家族がそろうと同時に謝りました。謝ると同時に我が家のルールがある理由にも気付くことができました。「忙しい中でも、その時間だけは私と真剣に向き合ってコミュニケーションをとりたいから。」という、私の両親からのありったけの愛です。

食事の原点にかえると「ご飯をみんなで分け与える」というものになると思います。その原点は我が家のルールの原点そのものです。普段は目に見える形では家族とのつながりや結び付きを感じることはありません。そんな中でも我が家では毎日夕食の時間に、そのつながりや結び付きを感じるすることができます。

今、改めて気付くことができた家族のつながりや結び付きに感謝し、これからもその原点とルールを大切に、両親の愛を感じながら大きく成長していきたいです。

三次市立塩町中学校

2年 福^{ふく}田^だ泰^{やす}子^こ

私の父は、いつも仕事で忙しそうにしている。朝早くに家を出て仕事へ行き夜遅く、私が寝ている頃に帰って来る。休日も仕事へ行ったり、家で仕事をしている。

そんな父は、私の学校行事がある時は、仕事を休んででも絶対に来てくれる。そんなに無理して来なくてもいいのに…。これが私の本音である。

学校行事で先日PTCがあった。その時も学校へ来たのはやはり父だった。数日前から「PTC、めっちゃ楽しみにしとるけんね。」とはりきっていた事を思い出した。競技は、二人三脚だ。「最悪。お父さんと二人三脚なんてしたくない。」思わずそう言ってしまった。いつもは笑顔な父が一瞬悲しそうな表情を浮かべた。

ハチマキで足を結び本格的に二人三脚の準備が整った。こうしてついに、親子での二人三脚がはじまった。私は父とは仲が良い方だし、その場で少し練習したから大丈夫だろうと思っていたが、そう簡単にはいかず、バラバラしてしまった。「1, 2, 1, 2」と2人で掛け声を言う。たまに、バランスが崩れたときには「ちょっとお父さん」と笑いあう。こんなに楽しそうに笑った父を見るのはいつぶりだろう。父はいつも笑顔で接してくれるが、普段はどこか忙しく疲れたような笑顔をみせる。だが今日は、心から本当に楽しんでいるような笑顔だった。私は、前まで嫌がっていた父との二人三脚だが、実際にやってみるととても楽しかった。加えて、普段忙しそうにしている父と楽しむことができ、嬉しく良い思い出になった。でも、競技前に父に言ってしまった言葉にひどく後悔していた。父に向かってひどい言葉を言ってしまった、その時謝っておけば良かった。色々な後悔の思いが込みあげてきた。だが私は、その場で父に素直に謝ることが出来なかった。今の私は、そこで謝ることが出来なかった事に後悔している。

PTCで父との絆は少し深まったと思う。忙しくしている父の最高の笑顔を見ることができ、本当に嬉しかった。これから、家で忙しい父と話したり、ゆっくりする時間はとても少なくなることだろう。最初は嫌だと思っていたけれど、大切な時間を使って、学校行事にいつも来てくれる父に感謝をしていきたい。そして、まだまだ父の前では素直になることが出来ない私だが、思っている事を素直に伝えられるようになりたい。いつか、私をもっと素直になって、今まで以上に仲の良い親子になりたい。

広島市立五日市中学校

2年 ^{やま}山 ^{うち}内 ^{のぞ}希 ^み珠

私の家族は全員過保護だ。例えば、友達の家に行く時の送り迎えや旅行・お泊りの際の必要以上に多い予備の着替えなどの荷物、家に1人だけでお留守番をさせないなど過保護であると共に心配性である。

昔の私は、親と兄だけでなく祖父母までも過保護なことを特に気に留めることはなく、むしろ「楽だな」ぐらいにしか思っていなかった。他の友達の親も私の親と同じ過保護であると思っていたからだ。だが、そうではないと気付いたのは中1の秋ぐらいからで友達の一言が原因だった。その友達の一言はこうだ。

「のんは、親にとても愛されているね。」

私は一瞬間を言われているのか理解できなかった。思わず、
「どうして？」

と聞くと、友達は私に驚いた様な表情をして

「自覚ないの？」

とだけ聞き返してきた。素直にうなずくと、

「のんの親ほど過保護な人はそうそういないよ。」

と言われた。その日は笑って話を流したが、私の頭は友達からの一言でいっぱいだった。

そして、友達とのことがあって少ししてから私は母と言い合いをしたことがあった。親が過保護のあまり、私のしたいことをさせてもらえなかった時だ。

「母さんが過保護すぎなだけなんだよ。他の友達の親はもっと優しい。」

思わず口から出た私の言葉に、母が少し悲しそうな表情をした気がした。だが、その時の私の脳内には「うざい」という言葉しかなかった。そのまま話は流れて、結果気まずい雰囲気が続くことになった。

次の日、気まずい雰囲気のまま学校の支度をした。そして玄関のドアを開けようとした時、母は考えてもいなかったことを言った。

「昨日はごめんね。」

その時、私は何も悪くない母が謝ったことにひどく驚いた。その謝罪の後に出てきた母の次の言葉は、

「いってらっしゃい。気を付けてね。」

だった。その時、なぜか毎朝言われ慣れている言葉なのに泣きそうなほど心が温かくなった私があった。それなのに、私のプライドは見栄を張って無視をしたまま家を出てしまったことをひどく恨むことになったのは1分もかかることはなかった。その日は1日、母に謝ることだけを考えていた。家に帰っても優しく出迎えてくれた母に私はすぐ謝ることができた。

私の親は過保護だ。過保護すぎることもあるが、私は私を大切に思ってくれているゆえに過保護である母や父に感謝して生きていくということも大切だと思った。

尾道市立美木中学校

3年 かね 3年 金 藤 眞 想

家族には、様々な形があると思う。

私はいわゆる一人っ子で、厳格だが子供っぽく優しい一面もある父と温厚で現実主義者な母の3人家族だ。家では、会話が深い。テレビや新聞で見聞きしたこと、職場や学校での出来事や勉強のことなど、日常的な内容から、人間関係や将来について考えたことや倫理的なことまで、会話の主演となるものは様々だ。忌憚なく会話が進むため、途中で喧嘩腰になってしまったり、話が脱線したりすることは少なくないが、その会話から学んだことは多い。

それは、私が、学校での人間関係について悩んでいたときの会話だ。当時、苦手な人との付き合い方が分からず相談した私に、両親は、それぞれ異なる視点からのアドバイスをくれた。

父は「人を変えるのは周囲の人ではなく、自分だ。そして、最終的な決定権も自分にある。だから、自分の受けたい影響だけを受ければいい。」と言ってくれた。そのように考えれば、苦手な人とでも接しやすくなるということだ。実際、自分が選択しているのだと思えば、感情の整理もしやすくなった。

母は「新たな価値観や人との接し方など、どんなに苦手な人からでも学べることはある。だから、その経験をさせてもらえることに対して感謝をなさい。」と言ってくれた。以来、感謝の気持ちを持つようにすると、苦手な人にでも、強く当たってしまうことが減り、穏やかに話せるようになった。

そして、何よりも私を支えてくれたのは、両親の「いつでも味方だから。」という言葉だ。

私は、人間関係で大きな問題を起こすのが嫌で、いつも他人に判断を委ねてしまう。まさに「優柔不断」だ。だからこそ、両親の言葉がとても嬉しかった。その言葉のお陰で、自分で選択して、行動すればいい、自分の思ったことを言ってもいいのだ、と思うことができたからだ。

私にとって家族とは、安心と息抜きができ、自らを成長させることのできる関係だ。だが、家族には様々な形がある。血縁関係があっても仲の悪い家族もあれば、血縁関係がなくても仲の良い家族もある。どちらも家族には違いない。家族の縁は切っても切り離せないのなら、歩み寄ってもいいし、少し離れてみてもいいと思う。家族だって人間だ。相手の本心なんて分かる筈もない。とはいえ、理解しようとする努力も、相手に自分の気持ちを伝えようとする努力も、忘れてはならない。それを教えてくれたのも両親だ。

私は、両親と生きることができていることに心から感謝している。それは、これから家庭や周囲が変わってしまったとしても、変わることはないだろう。親しき仲にも礼儀あり、という言葉にもあるように、両親への感謝を忘れずに、尊重し、思いやれるようになりたいと思う。その気持ちを自分の関わる人全てに向けられるように、努力を重ねていきたい。

呉市立横路中学校

3年 ^{しげ}重 ^{もと}本 ^{みの}実 ^り理

「腹を抱えて笑う」この表現は非常に正確です。私は家族を見てそう思いました。私の家族はとてもよく笑います。ときには息もできないくらいに笑います。しかも、我が家の笑いは、コロナ禍で減るところか、むしろ増えたような気がします。コロナ禍で、外で何かをするということが減り、家で過ごすことが多くなりました。その分、家で家族と話すことも増え、笑うことも多くなりました。今年、私は気がつきました。そんな我が家の笑いは、家族全員がそろってこそ完璧に成り立つものだというところに。

この4月から、姉が一人暮らしを始めました。そのため、家は私と父と母の3人になりました。3人でも十分おもしろいのですが、姉がいない分、笑いが減ってもの足りませんでした。最初のうちは電話をつないでいました。しかし、電話ではあまり長く話すことができません。そこで、ズームをつなげて話すようになりました。ズームだとお互いの顔が見えるので、会話もはずみました。また、姉の部屋や料理を見せてくれました。姉の話をきいているうちに、気づけば時計が12時をまわっているということもありました。

夏、姉が家に帰ってきました。久々の4人でのご飯は最高でした。対面で話すのは、電話やズームで話すより、何百倍もおもしろかったです。お茶を飲むタイミングをまちがえると、ふき出してしまいそうでした。家族4人が実際にその場にいてこそ、私の家族は最高におもしろいんだなと思いました。

私は家族とときどきけんかします。それでも、少したてばまたお互いに笑いあっています。姉は勉強でわからないところを教えてください。たまに私のミスで答えがわからなくなることがあります。それも「あ、凡ミスじゃん。」と2人で笑いあいます。また、お互いに同じことを言ったり、考えていたことを一足先に言われたりもします。そんなとき、「同じこと考えんとつてや。」と言いつつも笑ってしまいます。我が家でよく使われるネタも、結末を知っているから、逆に笑ってしまいます。これだけ笑っていただけることは、私の家の一番の幸せだと思います。

今は技術が発展し、離れていても電話やラインなどで話すことができます。しかし、電話やラインにはない楽しさが、対面で話すことにはあると思います。私は、我が家の最高の笑いを続けたいです。

東広島市立松賀中学校

3年 白^{しら}野^の若^{わか}葉^ば

「ありがとう。」

たったの5文字。私は母に言えていない。何度も伝える場面はあるのに、心の中で思うだけで言葉にできない。だんだん母の優しさが当たり前になって、いつしか伝えなくなってしまった。しかし、ある日から私の心は変化した。

私はソフトボール部に所属していた。早朝集合も多い中、母は嫌な顔ひとつせず、送迎やお弁当を作ってくれた。また、朝は食欲のない私のために小さめのおにぎりを作ってくれた。「ありがとう」と思っているもやはり伝えられなかった。

3年生になった日、副部長として思うようにいかずしんどい時が何日も続いた。

「明日は何時に朝ご飯？ 言ってくれないと作れないよ。」

と、聞いてくれた母に

「別に頼んでいない。」

と怒りの矛先を母に向けてしまった。母の悲しそうな顔は今でも忘れられない。

次の日の朝、いつもある私の朝食が無かった。私のせいだと落ちこんでいた時、
「母さん、昨日運ばれた。疲労が原因らしい。いつも以上に手伝いをしてほしい。」

と父が言った。驚きが隠せなかった。だが、朝は仕事、帰ったら夕食の準備など母は休む暇なく働いていた。

母の日、15年間の感謝を込めて、私はカレーライスを作った。

「おいしいかは分からないけど作ってみた。」

と言うと母は、

「作ってくれただけで嬉しい。ありがとう。」

と、笑顔で言ってくれた。変わると決めた私は母に勇気を出して

「母さん、いつもありがとう。」

と言うことができた。

当たり前前の感謝などない。どこかで支えてもらいながら生きている。勇気を出さなくても、すぐに伝えられるようになりたい。たった5文字の言葉で、自分も、相手も幸せに包まれる。今日は何回言えるだろうか。

「ありがとう」

と。

三原市立大和中学校

3年 ちか ひろ おと は
近 廣 音 羽

私の祖母は病気にかかっていることが判明してから、たった3か月でこの世を去りました。物知りでいつも元気でよく笑う自慢のおばあちゃんでした。私は祖母が大好きで泊まりに行くこと、いつもいろいろなことを教えてくれました。

祖母は食べるのが大好きで、その中でもお米を食べることが一番好きでした。だから、病気にかかって食べ物が食べられなくなっても、「ご飯を見るだけでいい」と言っていて、いつもお茶碗いっぱいによそってもらうほどでした。そういえば、いつも私に「いっぱい食べんさいね」と言っていて、自分が食べるのを後回しにしてくれました。食べやすいように小さく切ったり、食べ終わるまでずっと見てくれた祖母の顔。そのおかげで小さい頃は好き嫌いが多かった私も、苦手な食べ物の美味しさに気付け、祖母の影響で食べるのが好きになりました。

祖父母は農家を営んでおり、玄米や味噌などを作って販売していました。肥料を使わない体に優しい丹精込めて作った商品を、お客さんに「美味しかったです。」と言ってもらえる。その言葉を聞きとて嬉しそうに祖母を見ることが、私は大好きでした。泊まりに行くといつも玄米を出してくれます。米麴を使った料理やふりかけを作ってくれます。体に良いものをたくさん作って並べてくれました。最近は健康に気をつかう人が増え、玄米ご飯なども人気になっているため、祖母に教わったことが活かしています。本当によかったなと思います。

また、祖母は小さいことでも「まあ、いいねえ」といつも褒めてくれました。帰る際にはいつもハグをしてくれました。辛いことがあってもそれだけで楽になれて、祖母の存在は私にとってとても大きいものだったと、今さらながら気づいています。

私は祖母にたくさんのことを教わり支えられてきました。しかし、祖母の病気が分かってからは、帰る前のいつものハグで泣きそうになりました。言葉も出ず涙をこらえて笑顔でいようとすることしかできませんでした。そんな祖母が亡くなる前日、いつものように会いに行こうとしていた私は、「今日は調子が良くて大丈夫そう。」と言われたので次の日行くことにしました。しかし、容態が急変し、二度と祖母に会えなくなりました。心のどこかで、祖母は絶対病気を治しました元気になると信じていました。でも、祖母に何もしてあげられず、もっとたくさん話をして、いろいろなことを教えてもらいたかった。もっと支えてあげることができた。とたくさん後悔していることがあります。

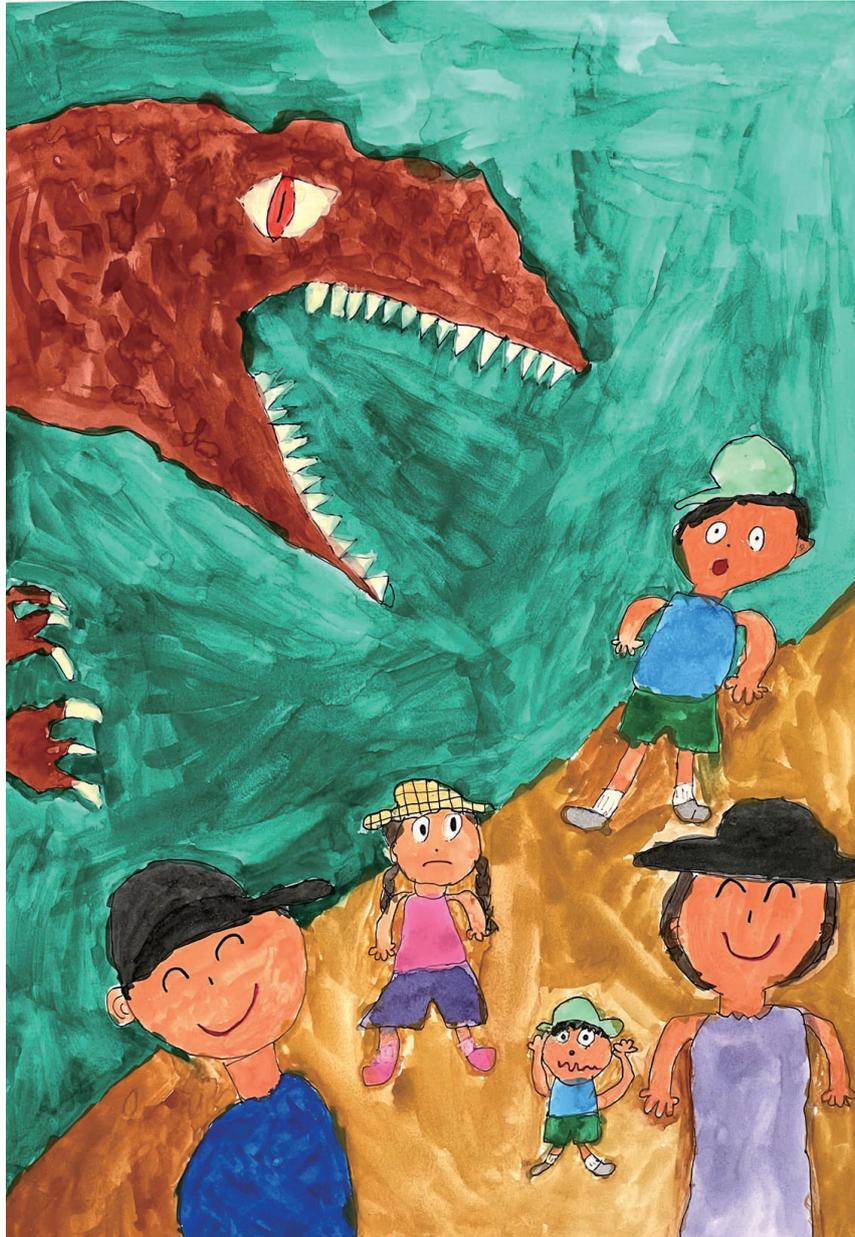
祖母が亡くなった今、私にできることは祖母との思い出や、教わったことを生活などの様々な場面で活かし、無駄にしないことです。ご飯を見ると、ふと祖母のことを思い出します。そのたびに祖母に感謝し、祖母のような人になれるよう頑張ろうと思います。

「ありがとう、おばあちゃん。」

特選

呉市立安登小学校

3年 馬場 吉弥



ダイナソーパークに行った思い出をかいた。

入 選

福山市立御幸小学校 1年 もり した たま き 妃



山村留学しているお兄ちゃんとの再会。

福山市立春日小学校 3年 う だ もも か 花



家族で見た花火がきれいで楽しかった。

尾道市立御調西小学校 3年 さ とう なり まさ 佐 藤 成 将



水が流れる様子を、色を重ねて表現している。

広島市立己斐東小学校 5年 く ぼ ゆい き 久 保 惟 生



おうちで楽しく親子のピアノ・アンサンブル

広島県立広島中学校 3年 もち かわ は な 餅 川 芭 奈



カメラの中の私たちを懐かしんで描いた。

令和4年度「家庭の日」作文・図画募集要綱

- 1 趣 旨 健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。
青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。
この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、小・中学生が、家族や家庭について日頃思っていることや感じていること、家族と一緒に体験したことなどを作文や図画に表現した作品を募集します。
- 2 対 象 者 県内に在住の小・中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 4 後 援 広島県・広島県教育委員会
- 5 協 賛 広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ、(敬称略、順不同)
- 6 応募方法
- 作 文 ・ 400字詰め原稿用紙3枚程度とします。
・縦書きとし、はっきりと書いてください。
・題の次に、学校名・学年・名前(ふりがな)を記入してください。
- 図 画 ・ 作品は4つ切りの画用紙とします。
・画材は自由です。(クレパス、水彩絵の具等)
・ポスターではないため、タイトルやキャッチフレーズは書かないでください。
・裏面の「図画応募用紙」に記載し、作品の裏に貼付してください。
作品のコメントも忘れずに記載してください。
- 注意事項 ・ 一人1点に限ります。
・本人の作品で未発表のものに限ります。
・提出された作品は、返却しません。
・企業名や商号の入った作品は対象外となります。
・作成指導に当たっては、作品に直接手を加えないようにお願いします。
・図画は送付時に丸めないでください。
- 7 応 募 数 作品は応募校で事前審査し、作文・図画それぞれ各学年5名以内で応募してください。なお、作品を書いた児童・生徒全員に参加賞を贈りますので、作品の応募総数を明記してください。
- 8 応募締切 令和4年9月1日(木) 必着
- 9 送 付 先 〒730-8511広島市中区基町10番52号 広島県環境県民局県民活動課内
(公社)青少年育成広島県民会議 電話 082-513-2742 / FAX 082-511-2173
- 10 審査方法
- (1) 予備審査は作文のみとし、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成県民会議職員が行います。
- (2) 事前審査は作文のみとし、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。
- (3) 作文・図画の審査会は、学識経験者、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成県民会議職員によって構成する審査員が行います。
- 11 表 彰 特選者は、青少年育成県民運動推進大会において、広島県知事賞の賞状及び賞品を授与します。入選者は、当県民会議会長賞の賞状及び記念品を後日送付します。
- 12 副 賞 特選者は、1万円の図書カードを贈ります。また、応募者全員に参加賞を送付しますので、必ず応募者の控えをお持ちください。
- 13 そ の 他 入賞作品は、当県民会議発行の入賞作品集や、機関紙「せとのあさ」に掲載するなど広く活用させていただきます。

審査員名簿及び審査要領

●作文の部審査員

宇佐川秀輝	(公社) 青少年育成広島県民会議常務理事
石田 睦子	三次市教育委員会社会教育委員
小原 正啓	尾道市立百島中学校長
中村 好宏	広島県環境県民局県民活動課長
福田菜津美	広島県教育委員会学びの变革推進部義務教育指導課指導主事

●作文の部審査要領

1 選定方法

- (1) 特選(県知事賞) …… 3作品
- (2) 入選(会長賞) …… 上位20作品程度を選定する。

2 審査の方法

(1) 事前審査

- ・小学校低・高学年，中学生の部をとおして，「家庭の日」の理解度，感銘度，論題にそった論旨，論点の整理，表現力，文の構成等を審査する。
- ・評点は10段階評価とする。
- ・特選を10点満点とし，小・中学生をとおして，特選3作品を選定する。
- ・入選は上位20作品程度を選定する。
- ・学年ごとに平均して選定しなくても良い。

(2) 審査会

事前審査の結果をもとに協議し，相互調整して特選，入選を選定する。

●図画の部審査員

濱田 昭法	元広島県教育研究会美術部会会長・元広島市教育研究会美術部会会長
宇佐川秀輝	(公社) 青少年育成広島県民会議常務理事
住田 佳子	広島県教育委員会学びの变革推進部義務教育指導課指導主事
中村 好宏	広島県環境県民局県民活動課長
藤崎 綾	広島県立美術館主任学芸員

●図画の部審査要領

1 選定方法

- (1) 特選(県知事賞) …… 1作品
- (2) 入選(会長賞) …… 5作品

2 審査の方法

- (1) 作品ごとに，表現力，構成力，家庭の日の理解度等を審査する。
- (2) 候補作品を学年ごとに並べ，審査員は1学年ごとに，5点ぐらい選定する。なお，各審査員同士が同一作品を選定しても良い。
- (3) 候補作品は必ずしも各学年から均等に選ばなくてもよいが，できれば小学校(低・中・高学年)，中学校のバランスを考慮する。
- (4) 審査員が全学年の作品を見た後，(2)で選んだ作品を全部並べ，その中から特選1点，入選5点を協議により選定する。

令和4年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

小学校の部		作 文							図 画							応募 総数	参加 人数		
番号	学 校 名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	作・ 参加 人数	1年	2年	3年	4年	5年	6年			計	図・ 参加 人数
1	廿日市市立平良小学校		1		1			2	2	1	1	1	1			4	4	6	6
2	東広島市立龍王小学校	1		1		1	1	4	4	4	4	2	1	1	1	13	30	17	34
3	呉市立川尻小学校					1		1	1									1	1
4	庄原市立比和小学校						1	1	1									1	1
5	三原市立糸崎小学校	5	5	5				15	78									15	78
6	広島市立千田小学校					1	2	3	3									3	3
7	広島市立戸坂小学校		1	1		1	2	5	5	5	5	5	5	4	1	25	62	30	67
8	広島市立口田東小学校						1	1	1	5	5	5	3			18	21	19	22
9	広島市立彩が丘小学校				1		1	2	2									2	2
10	東広島市立小谷小学校	3	2	1	1			7	8									7	8
11	広島市立東浄小学校					1		1	1	2	5	1		1		9	12	10	13
12	東広島市立寺西小学校	1	4	5	5	1	2	18	50									18	50
13	広島市立大河小学校	1			1			2	2	2	2			1		5	5	7	7
14	広島県立広島中央特別支援学校						1	1	1									1	1
15	広島市立緑井小学校	1	1	1	1	1		5	5									5	5
16	広島市立翠町小学校			2		1		3	3	4	1		2	1		8	8	11	11
17	呉市立坪内小学校						1	1	1	1	3	1				5	5	6	6
18	竹原市立竹原西小学校			4	5	5	5	19	52	5	1					6	6	25	58
19	福山市立春日小学校				1	1	1	3	3	4	1	2		2		9	9	12	12
20	東広島市立西条小学校		1	2	2	3	2	10	15	2	1	1	1	3		8	18	18	33
21	呉市立昭和北小学校		1			1		2	2	1			1			2	2	4	4
22	広島市立楠那小学校			1		1		2	2	1			1			2	2	4	4
23	広島市立石内北小学校		1	2		1	1	5	5	5	5	3	5	2		20	32	25	37
24	呉市立安登小学校						1	1	2			5				5	19	6	21
25	東広島市立板城西小学校	1						1	1			1				1	1	2	2
26	三次市立酒河小学校			1				1	1	2	2					4	4	5	5
27	福山市立御幸小学校		1	1			1	3	3	3	2		1	1		7	7	10	10
28	三次市立みらさか小学校			1			1	2	2		1					1	1	3	3
29	広島市立長束小学校		1	1		1		3	3	2	1	2	1			6	6	9	9
30	竹原市立大乘小学校		2	2	3	3	4	14	14									14	14
31	広島市立基町小学校									2	1	2		4	1	10	10	10	10
32	尾道市立御調西小学校									2		3	2			7	7	7	7
33	東広島市立木谷小学校													1	1	1	1	1	1
34	広島市立大町小学校									5	5	4	1		2	17	27	17	27
35	広島市立筒瀬小学校										1					1	1	1	1
36	広島市立荒神町小学校									1			1			2	2	2	2
37	福山市立西小学校									5	4		3	1	1	14	14	14	14
38	府中市立府中明郷学園									2						2	2	2	2
39	呉市立宮原小学校													1	1	1	1	1	1
40	広島市立己斐東小学校									1	1	2		2	1	7	7	7	7
41	三原市立小泉小学校									1				1		2	2	2	2
42	尾道市立久保小学校									4	1	1	2		4	12	12	12	12
43	廿日市市立宮島小学校									1						1	1	1	1
44	廿日市市立阿品西小学校									5	2		1			8	8	8	8
45	広島市立中野東小学校										1		1			2	2	2	2
46	尾道市立長江小学校										1	1	2			4	4	4	4
47	広島市立亀山小学校									3	1			1		5	5	5	5
48	広島市立亀崎小学校									2			1			3	3	3	3
49	福山市立駅家小学校											1				1	1	1	1
50	広島市立古田台小学校									1	3	1	1	1	1	8	8	8	8
	合 計	13	21	31	21	24	28	138	273	84	61	44	37	26	14	266	372	404	645

令和4年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

中学校の部		作 文					図 画					応募 総数	参加 人数
番号	学 校 名	1年	2年	3年	計	作・ 参加 人数	1年	2年	3年	計	図・ 参加 人数		
1	広島県立広島中学校						5	5	5	15	18	15	18
2	広島市立幟町中学校	5	5	5	15	34						15	34
3	広島市立江波中学校	4	4	5	13	20						13	20
4	広島市立城山北中学校	5	5		10	14						10	14
5	庄原市立庄原中学校	1			1	52						1	52
6	海田町立海田中学校	5	5	4	14	58						14	58
7	廿日市市立四季が丘中学校	5	5	5	15	17						15	17
8	呉市立昭和北中学校	4	4	3	11	37						11	37
9	広島市立可部中学校	5	5	5	15	73						15	73
10	広島市立五月が丘中学校	1	2		3	5						3	5
11	呉市立天応中学校		1		1	1						1	1
12	広島市立井口台中学校	5			5	96						5	96
13	尾道市立美木中学校	5	2	2	9	27						9	27
14	東広島市立黒瀬中学校	5		5	10	37						10	37
15	広島市立安西中学校	1			1	1						1	1
16	三原市立第五中学校	5	5	4	14	25						14	25
17	三原市立宮浦中学校	3	2	3	8	66						8	66
18	廿日市市立野坂中学校	2	2		4	4						4	4
19	竹原市立竹原中学校	1	1	3	5	22						5	22
20	三次市立十日市中学校	2			2	5						2	5
21	三次市立塩町中学校	1	1	2	4	29						4	29
22	東広島市立松賀中学校	3	2	4	9	34						9	34
23	広島市立祇園東中学校		5		5	5						5	5
24	呉市立蒲刈中学校	1	1		2	2						2	2
25	廿日市市立廿日市中学校	5	5		10	77						10	77
26	三原市立大和中学校		1	2	3	32						3	32
27	庄原市立口和中学校	1	2	1	4	16						4	16
28	尾道市立久保中学校	5			5	38						5	38
29	呉市立昭和中学校	5	5	3	13	29						13	29
30	東広島市立八本松中学校	4	4		8	8						8	8
31	福山市立新市中央中学校	5	5	5	15	43						15	43
32	呉市立和庄中学校		3		3	3						3	3
33	広島市立五日市中学校	4	5	2	11	36						11	36
34	広島市立宇品中学校	5	5	5	15	127						15	127
35	東広島市立磯松中学校	5	5	5	15	19						15	19
36	呉市立横路中学校			5	5	24						5	24
37	広島市立砂谷中学校	4			4	19						4	19
38	福山市立鳳中学校						2	1	1	4	4	4	4
	合 計	112	97	78	287	1135	7	6	6	19	22	306	1157

令和4年度入賞作品集
「少年の主張」・中学生話し方大会
「家庭の日」に関する作文・図画

発 行

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10番52号
広島県環境県民局県民活動課内

TEL 082-513-2742 FAX 082-511-2173

URL : <http://www.hiro-payd.or.jp/>



えがおの花咲く あなたの挨拶!

一日のはじまりは
挨拶から

おはよう



広島県の
青少年のマスコット
ゆっぴー